



彩の国さいたま

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第194集

鴻巣市

新屋敷遺跡D区

大蔵省鴻巣宿舍建設工事関係
埋蔵文化財発掘調査報告
〈第1分冊〉

1998

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



新屋敷遺跡D区全景（北西から）



第60号墳遺物出土状況



第43号墳出土遺物



第58号墳出土遺物



第60号墳出土遺物



第63号墳出土遺物



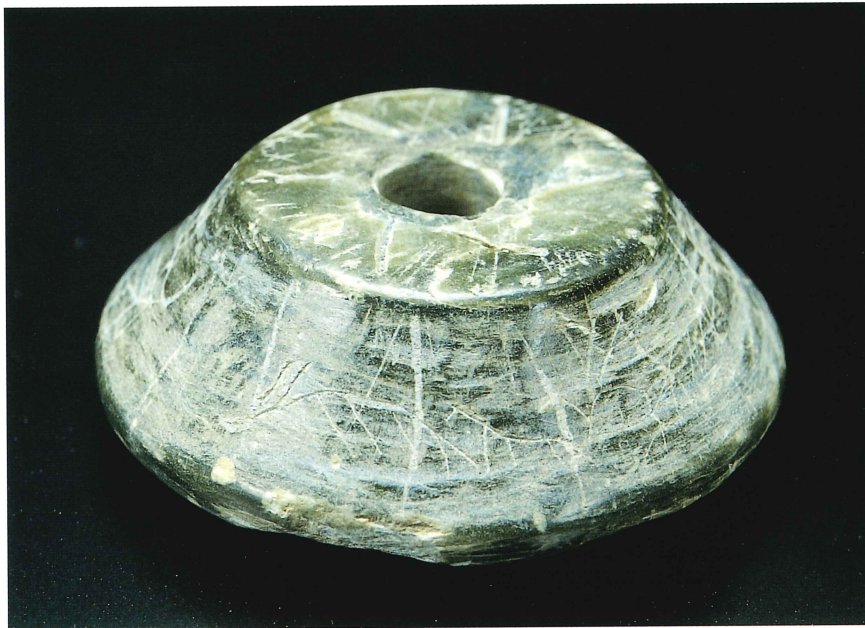
第60号墳出土埴輪



須恵器高坏 (第60号墳)



須恵器甗 (第60号墳)



線刻画紡錘車 (第58号墳)



展開写真



第79号住居跡遺物出土状況



第79号住居跡カマド遺物出土状況



肥前系碗（第67号井戸）



「有」刻字紡錘車（第904号土壙）

序

雛人形と花の町として知られる鴻巣市は、近年の都市化により宅地化が進んでおります。

鴻巣市東四丁目の農事試験場跡地につきましては、既に埼玉県、埼玉県住宅供給公社などによって公共施設や住宅として活用されてきました。大蔵省でも、この地に国家公務員の住宅環境整備の一環として鴻巣住宅を建設することになりました。

建設予定地内は、既に埋蔵文化財の包蔵地であることが知られておりましたが、その取り扱いについて、関係機関が慎重に協議を重ねた結果、記録保存の措置を講ずることになり、埼玉県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施することになりました。

鴻巣市には、大規模な埴輪生産遺跡である生出塚埴輪窯跡があります。また、国指定史跡埼玉古墳群も隣接し、古墳との関わりが深い地域であります。

江戸時代においては将軍の日光参拝、鷹狩りの宿泊休憩に使用された鴻巣御殿が所在した地として知られています。

調査の対象である新屋敷遺跡は、これまでに多くの調査が実施され、旧石器時代から江戸時代までの遺構・遺物が多数検出されておりますが、本報告は農事試験場跡地に関連する調査報告書の最終となるものであります。

特に今回の調査では、古墳跡が25基発見され、総数77基にもなりました。古墳群の中心的な古墳として前方後円墳が一基発見され、埼玉古墳群の築かれはじめ頃の土器や埴輪類が出土しました。この古墳群と埼

玉古墳群との関係を考える上で重要な資料となるものであります。

平安時代の集落から出土した陶器類は、東海地方で焼かれたものがあり、予想以上広い範囲に流通していたことを窺わせます。

江戸時代では、建物跡とそれを囲む溝跡・堀跡・井戸跡などが多数発見されました。また、この地の小字名が「新屋敷」と名付けられていることから、周辺に推定されている鴻巣御殿や新編武蔵風土記稿にみえる「鷹部屋」との関連が興味をひかれるところであります。

これらの成果をまとめたものが本書であります。本書が埋蔵文化財保護の基礎資料として、また、学術研究や教育・普及の資料として広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力をいただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで、御協力をいただきました大蔵省関東財務局浦和財務事務所、鴻巣市教育委員会、並びに地元関係者各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成10年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 荒井 桂

例言

- 1 本書は埼玉県鴻巣市に所在する、新屋敷遺跡に関する発掘調査報告書である。遺跡の代表番地と、発掘調査に対する文化庁指示通知は以下の通りである。
新屋敷遺跡D区（略号SNYSK）
鴻巣市東4丁目384番地12他
平成5年6月29日付け委保第5の641号
平成6年4月27日付け文教第2の20号
- 2 発掘調査は大蔵省合同宿舍鴻巣住宅の造成に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整を経て、大蔵省関東財務局の委託により、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 3 発掘調査は平成6年4月1日～平成7年9月30日まで行い、平成5年度が³14,000㎡、平成6年度が³8,000㎡、合計22,000㎡について実施した。
- 4 発掘調査の担当は以下の通りである。
平成6年度
昼間孝志、田中正夫、熊沢孝之
平成7年度
昼間孝志、西口正純、田中正夫
- 5 報告書作成事業は平成8年度～9年度に受託し、平成8年9月1日～平成9年3月31日までを昼間、平成9年4月1日～平成10年3月31日までを昼間、大谷徹が担当し、実施した。
- 6 なお、発掘調査と整理事業の組織は3頁に示した通りである。
- 7 出土品の整理及び実測、作図、作表、写真撮影は昼間と大谷が主に行い、先土器時代については西井幸雄、縄文時代については上野真由美が行った。
- 8 遺跡の基準点測量と航空写真は株式会社パスコに、巻頭カラー写真の一部は小川忠博に、出土遺物の胎土分析は第四紀地質研究所に、漆器類は漆器文化財科学研究所にそれぞれ委託した。
- 9 本書の執筆は主に昼間、大谷が行い、文責は以下の通りである。
I-1 埼玉県生涯学習部文化財保護課
I-2・3、II、IX-1・2、X-1～4、6～9、
XI-1・2(1)・(2) 昼間
III、VI、VII、VIII-3 大谷
IV、VIII-1 西井
V 上野
VIII-2 田中正夫
IX-3、X-5、XI-2(3) 佐々木健策
- 10 本書の編集は、当事業団資料部長、同副部長の監修のもとに、資料部資料整理第一課の昼間、大谷が行った。
- 11 本書に掲載した資料は、平成10年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管している。
- 12 本書を作成するにあたり、下記の方々よりご教示、御協力を賜った。(敬称略 五十音順)
赤井博之 江原昌俊 太田博之 大塚孝司
岡田賢治 小倉 均 亀田浩子 久能正博
栗原文蔵 車崎正彦 郷堀英司 小林博範
小林 裕 齊藤 進 坂本和俊 桜岡正信
佐野五十三 渋谷正彦 白井哲哉 新宅輝久
杉山晋作 鈴木裕子 竹花宏之 塚田良道
鳥羽政之 贄 元洋 松崎慶喜 山形洋一
山崎 武 渡辺 一
鴻巣市教育委員会 古代生産史研究会
埴輪研究会

凡例

- 1 本書の遺跡全体図におけるX・Yの座標数値は国土標準平面直角座標第IX系に基づく座標値を示している。また、各遺構図における方位指示は、すべて座標北を示している。
- 2 本遺跡におけるグリッドの呼称は、南西杭が基準である。南から北へ向かってA～Z、AA、AB、AC…、西から東へ向かって1～34…となる。また、グリッドはA～D区まで共通で、新屋敷遺跡全体を覆うようにグリッドを設定している。
- 3 グリッドは10mを大グリッドとして設定し、大グリッドに2mの小グリッドを25設定した。遺構の位置等のグリッドの表記は、大グリッドを基準としている。
- 4 本書における挿図内の遺構の表現は、便宜上、下記の記号で表記した。
- 5 遺構番号は、原則として調査時に付した番号をそのまま使用したが、一部変更したものがあつた。住居跡、掘立柱建物跡、土壇、溝、井戸、古墳の遺構番号はA区～D区の通し番号としている。
- 6 遺構図及び実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。

遺構図

- 先土器時代遺物分布図…1/40
- 住居跡…1/60
- 掘立柱建物跡・土壇・井戸…1/80
- 柵列・ピット群…1/200
- 遺物微細図…1/40
- 古墳…1/160

遺物

- 先土器時代石器…4/5
 - 縄文時代の土器・石器…1/3
 - 土師器・須恵器・陶磁器…1/4
 - 円筒埴輪・形象埴輪…1/5・1/4
 - 鉄製品…1/2
 - 石・土製品…1/3
- その他のものに関しては、スケール及び縮尺率等をその都度表記している。
- 7 遺構断面図における水平数値は海拔高度を示しており、単位はmである。
 - 8 住居跡の遺構図における網掛部分は焼土の範囲を表しており、●印のドットは遺物を示している。
 - 9 古墳時代の土師器実測図における網掛部分は赤色塗彩が行われている範囲を表している。
 - 10 古墳時代・平安時代の須恵器は、断面を黒く塗り、灰釉陶器は断面を網掛けした。
 - 11 遺物観察表の記載は次の通りである。
法量の()付き数値は推定値を表し、単位はcmである。
胎土は肉眼で観察される範囲の混入物を記載した。
A…石英、B…白色粒子、C…白色針状物質、D…長石、E…角閃石、F…赤色粒子、G…黒色粒子、H…雲母、I…片岩、J…砂粒である。
焼成Aは良好、B普通、C不良の3ランクに分けた。残存率は各部位に対するおおよその数値で、厳密なものではない。
 - 12 本書に掲載した地形図は、建設省国土管理院発行の1/50000の地形図を使用した。
 - 13 本書に使用した参考・引用文献は、(著者 発行年)で表記し、巻末にその一覧を記載した。

目次

口絵
序
例言
凡例
目次

2. 古墳群における供献の様相	225
3. 新屋敷古墳群の様相	231
附編 古墳時代出土遺物の胎土分析	261

〈第2分冊〉

〈第1分冊〉

I 調査の概要	
1. 調査に至る経過	1
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2
3. 発掘調査、整理・報告書刊行の組織	3
II 遺跡の立地と環境	4
III 遺跡の概要	11
IV 先土器時代の調査	
1. 調査の概要	15
2. 層位	15
3. 石器集中	18
4. 出土石器	21
5. 器種別分布	30
6. 礫群	33
先土器時代石器観察表	39
V 縄文時代の調査	
1. 調査の概要	53
2. 住居跡	53
3. 土壌	57
4. グリッド	61
VI 古墳時代前期の調査	
1. 調査の概要	69
2. 住居跡	69
VII 古墳時代後期の調査	
1. 調査の概要	73
2. 古墳跡	73
3. グリッド	211
埴輪観察表凡例及び計測表	214
VIII 調査の成果と課題 I	
1. 先土器時代のまとめと成果	219

IX 平安時代の調査	
1. 調査の概要	281
2. 住居跡	283
3. 井戸	444
X 中・近世の調査	
1. 調査の概要	447
2. 掘立柱建物跡	449
3. 柵列跡	473
4. 井戸	486
5. 溝	507
6. ピット群	519
7. 不明遺構	521
8. 土壌	523
9. グリッド	579
新旧対照表	587
XI 調査の成果と課題 II	
1. 平安時代の出土土器について	
(1) 出土土器の年代	591
(2) 酸火焼成の土器群	595
2. 新屋敷遺跡の性格について	
(1) 江戸時代以前の新屋敷遺跡	600
(2) 江戸時代の新屋敷遺跡	601
(3) 出土遺物の産地と特徴	605
附編	
1. 平安時代出土遺物の胎土分析	609
2. 近世漆器の塗膜分析	619

〈第3分冊〉

写真図版

挿 図 目 次

第1図	埼玉県の地形図	4	第36図	グリッド出土土器(3)	64
第2図	先土器～古墳時代の遺跡分布図	5	第37図	グリッド出土土器(4)	66
第3図	奈良・平安時代以降の遺跡等分布図	8	第38図	グリッド出土石器	67
第4図	新屋敷遺跡の調査沿革図	10	第39図	古墳時代前期の遺構配置図	70
第5図	遺跡周辺の地形図	12	第40図	第101号住居跡	71
第6図	新屋敷遺跡全体グリッド配置図	13	第41図	第101号住居跡遺物分布図・出土遺物	72
第7図	新屋敷遺跡D区全体図	14	第42図	古墳時代後期の遺構配置図	74
第8図	先土器時代調査区及び石器・礫分布図	16	第43図	第43号墳	75
第9図	石器集中7	18	第44図	第43号墳周溝土層断面図	76
第10図	石器集中8	19	第45図	第43号墳遺物出土状況図(1)	76
第11図	石器集中9	20	第46図	第43号墳遺物分布全体図	77
第12図	石器実測図(1)	22	第47図	第43号墳遺物出土状況図(2)	78
第13図	石器実測図(2)	23	第48図	第43号墳遺物分布図	79
第14図	石器実測図(3)	24	第49図	第43号墳出土遺物	80
第15図	石器実測図(4)	25	第50図	第43号墳埴輪分布図	81
第16図	石器実測図(5)	26	第51図	第43号墳円筒埴輪(1)	82
第17図	石器実測図(6)	27	第52図	第43号墳円筒埴輪(2)	83
第18図	石器実測図(7)	28	第53図	第43号墳朝顔形埴輪	84
第19図	石器実測図(8)	29	第54図	第43号墳埴輪ハケ拓影	84
第20図	器種別分布図(1)	31	第55図	第46号墳・出土遺物	85
第21図	器種別分布図(2)	32	第56図	第46号墳遺物分布図	86
第22図	礫群11	33	第57図	第55号墳・出土遺物	88
第23図	礫群12	34	第58図	第55号墳遺物分布図	89
第24図	礫群13	35	第59図	第56号墳・出土遺物	90
第25図	礫群14	36	第60図	第56号墳遺物分布図	91
第26図	礫群15・16・17	37	第61図	第57号墳・出土遺物	91
第27図	礫接合図	38	第62図	第57号墳遺物出土状況図	92
第28図	縄文時代の遺構分布図	54	第63図	第58号墳	93
第29図	第121号住居跡	55	第64図	第58号墳周溝土層断面図	94
第30図	第121号住居跡遺物分布図・出土遺物	56	第65図	第58号墳遺物分布全体図・出土状況図(1)	95
第31図	土壙(1)	58	第66図	第58号墳遺物出土状況図(2)	96
第32図	土壙(2)	59	第67図	第58号墳遺物分布図	97
第33図	第420号土壙遺物分布図・出土遺物	60	第68図	第58号墳出土遺物(1)	98
第34図	グリッド出土土器(1)	62	第69図	第58号墳出土遺物(2)	99
第35図	グリッド出土土器(2)	63	第70図	第58号墳埴輪ハケ拓影	99

第71図	第58号墳円筒埴輪(1)	100	第108図	第60号墳円筒埴輪(7)	137
第72図	第58号墳円筒埴輪(2)	101	第109図	第60号墳円筒埴輪(8)	138
第73図	第58号墳形象埴輪	102	第110図	第60号墳円筒埴輪(9)	139
第74図	第59号墳	103	第111図	第60号墳円筒埴輪(10)	140
第75図	第59号墳遺物分布図	104	第112図	第60号墳埴輪ハケ拓影(1)	141
第76図	第59号墳出土遺物	104	第113図	第60号墳埴輪ハケ拓影(2)	142
第77図	第60号墳	106	第114図	第60号墳朝顔形埴輪(1)	143
第78図	第60号墳断面図	107	第115図	第60号墳朝顔形埴輪(2)	144
第79図	第60号墳周溝土層断面図(1)	108	第116図	第60号墳円筒埴輪拓影図(1)	145
第80図	第60号墳周溝土層断面図(2)	109	第117図	第60号墳円筒埴輪拓影図(2)	146
第81図	第60号墳測量図	110	第118図	第60号墳ヘラ記号分布図	147
第82図	第60号墳遺物分布図	111	第119図	第60号墳形象埴輪分布全体図	151
第83図	第60号墳出土状況図配置図	112	第120図	第60号墳形象埴輪分布拡大図(1)	152
第84図	第60号墳遺物出土状況図(1)	113	第121図	第60号墳形象埴輪分布拡大図(2)	153
第85図	第60号墳遺物出土状況図(2)	114	第122図	第60号墳形象埴輪分布拡大図(3)	154
第86図	第60号墳遺物出土状況図(3)	115	第123図	第60号墳形象埴輪(1)	156
第87図	第60号墳遺物出土状況図(4)	116	第124図	第60号墳形象埴輪(2)	157
第88図	第60号墳遺物出土状況図(5)	117	第125図	第60号墳形象埴輪(3)	158
第89図	第60号墳遺物出土状況図(6)	118	第126図	第60号墳形象埴輪(4)	159
第90図	第60号墳遺物出土状況図(7)	119	第127図	第60号墳形象埴輪(5)	160
第91図	第60号墳遺物出土状況図(8)	120	第128図	第60号墳形象埴輪(6)	161
第92図	第60号墳遺物出土状況図(9)	121	第129図	第60号墳形象埴輪(7)	162
第93図	第60号墳出土遺物(1)	122	第130図	第60号墳形象埴輪(8)	164
第94図	第60号墳出土遺物(2)	123	第131図	第61号墳・出土遺物(1)	167
第95図	第60号墳出土遺物(3)	124	第132図	第61号墳出土遺物(2)	168
第96図	第60号墳出土遺物(4)	125	第133図	第61号墳埴輪ハケ拓影	168
第97図	第60号墳出土鈴鏡	126	第134図	第61号墳遺物分布図・出土状況図	169
第98図	第60号墳出土鉄製品	126	第135図	第61号墳出土埴輪	170
第99図	第60号墳出土紡錘車	127	第136図	第62号墳・出土遺物	171
第100図	第60号墳埴輪分布密度図	129	第137図	第63号墳	172
第101図	第60号墳埴輪分布図	130	第138図	第63号墳周溝土層断面図	173
第102図	第60号墳円筒埴輪(1)	131	第139図	第63号墳遺物分布全体図	174
第103図	第60号墳円筒埴輪(2)	132	第140図	第63号墳遺物出土状況図(1)	175
第104図	第60号墳円筒埴輪(3)	133	第141図	第63号墳遺物出土状況図(2)	176
第105図	第60号墳円筒埴輪(4)	134	第142図	第63号墳遺物出土状況図(3)	177
第106図	第60号墳円筒埴輪(5)	135	第143図	第63号墳遺物分布図	178
第107図	第60号墳円筒埴輪(6)	136	第144図	第63号墳出土遺物	179

第145図	第63号墳埴輪分布図	180	第182図	埴輪各部の名称及び計測位置	214
第146図	第63号墳円筒埴輪(1)	181	第183図	D区各集中出土石器	220
第147図	第63号墳円筒埴輪(2)	182	第184図	C区各集中出土石器	221
第148図	第63号墳埴輪ハケ拓影	182	第185図	尖頭器出土分布図	223
第149図	第63号墳円筒埴輪拓影図	183	第186図	模倣坏出土位置概念図	227
第150図	第64号墳	185	第187図	ブリッジと模倣坏出土位置の関係	229
第151図	第65号墳	186	第188図	墳丘規模及びブリッジ方位	231
第152図	第65号墳周溝土層断面図	187	第189図	新屋敷・生出塚遺跡概念図	232
第153図	第65号墳遺物分布図	188	第190図	新屋敷遺跡古墳分布図	236
第154図	第65号墳遺物出土状況図	189	第191図	古墳出土主要土器	238
第155図	第65号墳出土遺物	190	第192図	古墳出土土器編年図	240
第156図	第66号墳	191	第193図	第60号墳円筒埴輪分類図	242
第157図	第67号墳	192	第194図	円筒埴輪編年図	244
第158図	第68号墳・出土遺物	192	第195図	ヘラ記号集成	248
第159図	第69号墳	193	第196図	銀杏葉文ヘラ記号集成	251
第160図	第70号墳	194	第197図	紡錘車集成	253
第161図	第70号墳遺物出土状況図・出土遺物	194	第198図	紡錘車出土古墳分布図	254
第162図	第71号墳・出土遺物	195	第199図	新屋敷60号墳と鑑塚古墳	258
第163図	第72号墳・出土遺物	196	第200図	時期別変遷図	259
第164図	第72号墳遺物出土状況図	197	第201図	平安時代の遺構配置図	282
第165図	第73号墳・出土遺物	198	第202図	第51号住居跡	284
第166図	第73号墳遺物出土状況図	199	第203図	第51号住居跡出土遺物	285
第167図	第74号墳	200	第204図	第52号住居跡	287
第168図	第74号墳周溝土層断面図	201	第205図	第52号住居跡出土遺物	287
第169図	第74号墳遺物出土状況図・出土遺物	201	第206図	第53号住居跡出土遺物(2)	288
第170図	第74号墳遺物分布図	202	第207図	第53号住居跡・カマド・遺物分布図	289
第171図	第74号墳出土埴輪	203	第208図	第53号住居跡出土遺物(1)	290
第172図	第74号墳埴輪ハケ拓影	204	第209図	第54・57号住居跡	292
第173図	第75号墳	205	第210図	第54・57号住居跡カマド	293
第174図	第75号墳遺物分布図	206	第211図	第54・57号住居跡遺物分布図	293
第175図	第75号墳出土遺物	207	第212図	第54・57号住居跡出土遺物	294
第176図	第75号墳埴輪ハケ拓影	208	第213図	第55号住居跡・カマド	295
第177図	第75号墳円筒埴輪	209	第214図	第55号住居跡出土遺物	295
第178図	第76号墳	210	第215図	第56号住居跡	297
第179図	第77号墳	210	第216図	第56号住居跡出土遺物	298
第180図	グリッド出土遺物・埴輪	211	第217図	第58号住居跡出土遺物	298
第181図	グリッド出土形象埴輪	212	第218図	第58号住居跡・カマド	299

第219図	第59号住居跡・カマド	300	第256図	第71号住居跡出土遺物	333
第220図	第59号住居跡出土遺物	301	第257図	第71号住居跡遺物分布図	334
第221図	第60号住居跡・カマド・遺物分布図	302	第258図	第72号住居跡・カマド	335
第222図	第60号住居跡出土遺物	303	第259図	第72号住居跡出土遺物	336
第223図	第61号住居跡出土遺物	304	第260図	第72号住居跡遺物分布図	337
第224図	第61号住居跡・カマド	305	第261図	第73号住居跡	338
第225図	第61号住居跡遺物分布図	306	第262図	第73号住居跡出土遺物	338
第226図	第62号住居跡	307	第263図	第74号住居跡出土遺物	339
第227図	第62号住居跡出土遺物	308	第264図	第74号住居跡・カマド	340
第228図	第62号住居跡遺物分布図	308	第265図	第74号住居跡遺物分布図	341
第229図	第63号住居跡・カマド	309	第266図	第75号住居跡	342
第230図	第63号住居跡出土遺物	310	第267図	第75号住居跡出土遺物	342
第231図	第63号住居跡遺物分布図	311	第268図	第76号住居跡	343
第232図	第64号住居跡	312	第269図	第76号住居跡カマド	344
第233図	第64号住居跡カマド	313	第270図	第76号住居跡出土遺物	345
第234図	第64号住居跡出土遺物(1)	314	第271図	第76号住居跡遺物分布図	346
第235図	第64号住居跡出土遺物(2)	315	第272図	第77号住居跡・出土遺物	347
第236図	第64号住居跡遺物分布図	316	第273図	第77号住居跡遺物分布図	348
第237図	第65号住居跡	318	第274図	第78号住居跡	349
第238図	第65号住居跡カマド	319	第275図	第78号住居跡カマド	350
第239図	第65号住居跡出土遺物	320	第276図	第78号住居跡出土遺物	351
第240図	第65号住居跡遺物分布図	320	第277図	第78号住居跡遺物分布図	352
第241図	第66号住居跡・カマド	321	第278図	第79号住居跡・カマド	353
第242図	第66号住居跡遺物分布図	322	第279図	第79号住居跡出土遺物	354
第243図	第66号住居跡出土遺物	323	第280図	第79号住居跡遺物分布図	355
第244図	第67号住居跡・出土遺物	324	第281図	第80号住居跡・カマド	357
第245図	第68号住居跡・カマド・遺物分布図	325	第282図	第80号住居跡出土遺物	358
第246図	第68号住居跡出土遺物	326	第283図	第80号住居跡遺物分布図	358
第247図	第69号住居跡	327	第284図	第81号住居跡	360
第248図	第69号住居跡出土遺物(1)	327	第285図	第81号住居跡カマド(1)	361
第249図	第69号住居跡出土遺物(2)	328	第286図	第81号住居跡カマド(2)	362
第250図	第69号住居跡遺物分布図	328	第287図	第81号住居跡出土遺物	363
第251図	第70号住居跡・カマド	329	第288図	第81号住居跡遺物分布図	364
第252図	第70号住居跡遺物分布図	330	第289図	第82号住居跡	366
第253図	第70号住居跡出土遺物	330	第290図	第82号住居跡カマド・出土遺物	367
第254図	第71号住居跡・カマド(1)	331	第291図	第82号住居跡遺物分布図	368
第255図	第71号住居跡カマド(2)	332	第292図	第83号住居跡	368

第293図	第83号住居跡出土遺物	369	第330図	第96・104号住居跡	403
第294図	第83号住居跡遺物分布図	369	第331図	第96号住居跡出土遺物	404
第295図	第84号住居跡	370	第332図	第97・98号住居跡	405
第296図	第84号住居跡出土遺物	371	第333図	第97・98号住居跡カマド・出土遺物	406
第297図	第84号住居跡遺物分布図	371	第334図	第97・98号住居跡遺物分布図	407
第298図	第85号住居跡	372	第335図	第99号住居跡	408
第299図	第85号住居跡出土遺物	372	第336図	第99号住居跡出土遺物	409
第300図	第85号住居跡遺物分布図	373	第337図	第99号住居跡遺物分布図	409
第301図	第86号住居跡	374	第338図	第100号住居跡	410
第302図	第86号住居跡出土遺物	375	第339図	第102・103号住居跡	411
第303図	第86号住居跡遺物分布図	376	第340図	第102・103号住居跡カマド	412
第304図	第87号住居跡	376	第341図	第102号住居跡出土遺物	413
第305図	第87号住居跡出土遺物	377	第342図	第103号住居跡出土遺物	414
第306図	第87号住居跡遺物分布図	377	第343図	第102・103号住居跡遺物分布図	415
第307図	第88・89号住居跡	379	第344図	第105号住居跡	416
第308図	第88号住居跡カマド	380	第345図	第105号住居跡出土遺物	417
第309図	第89号住居跡カマド	381	第346図	第105号住居跡遺物分布図	417
第310図	第88号住居跡出土遺物	382	第347図	第106号住居跡	418
第311図	第89号住居跡出土遺物	383	第348図	第107号住居跡・カマド・出土遺物	419
第312図	第88・89号住居跡遺物分布図	384	第349図	第108号住居跡	420
第313図	第90号住居跡出土遺物	385	第350図	第109号住居跡	421
第314図	第90号住居跡・カマド	386	第351図	第109号住居跡カマド	422
第315図	第90号住居跡遺物分布図	387	第352図	第109号住居跡出土遺物	423
第316図	第91号住居跡	388	第353図	第109号住居跡遺物分布図	424
第317図	第91号住居跡出土遺物	389	第354図	第110号住居跡・カマド	426
第318図	第91号住居跡遺物分布図	390	第355図	第110号住居跡出土遺物	426
第319図	第92号住居跡	391	第356図	第110号住居跡遺物分布図	427
第320図	第92号住居跡出土遺物	392	第357図	第111号住居跡	428
第321図	第92号住居跡遺物分布図	392	第358図	第111号住居跡出土遺物	428
第322図	第93号住居跡	394	第359図	第111号住居跡遺物分布図	429
第323図	第93号住居跡出土遺物	395	第360図	第112号住居跡	430
第324図	第93号住居跡遺物分布図	396	第361図	第112号住居跡遺物分布図	430
第325図	第94・95号住居跡	398	第362図	第112号住居跡出土遺物	430
第326図	第94・95号住居跡カマド	399	第363図	第113・114号住居跡・カマド	432
第327図	第94号住居跡出土遺物	400	第364図	第113・114号住居跡出土遺物	433
第328図	第95号住居跡出土遺物	401	第365図	第115・116号住居跡	434
第329図	第94・95号住居跡出土遺物	402	第366図	第115・116号住居跡カマド	435

第367図	第115号住居跡出土遺物	435	第404図	新屋敷遺跡中・近世遺構配置図	472
第368図	第115・116号住居跡遺物分布図	436	第405図	第14号柵列跡	473
第369図	第116号住居跡出土遺物	436	第406図	第15号柵列跡出土遺物	474
第370図	第117号住居跡出土遺物	437	第407図	第15号柵列跡	475
第371図	第117号住居跡・カマド	438	第408図	第16号柵列跡	476
第372図	第118号住居跡	439	第409図	第17号柵列跡	477
第373図	第118号住居跡出土遺物	439	第410図	第18号柵列跡	478
第374図	第119号住居跡	440	第411図	第18号柵列跡出土遺物	478
第375図	第119号住居跡出土遺物	441	第412図	第19号柵列跡	479
第376図	第119号住居跡遺物分布図	442	第413図	第20号柵列跡	479
第377図	第120号住居跡・カマド・出土遺物	443	第414図	第21号柵列跡	480
第378図	第87・94・121号井戸	445	第415図	第22号柵列跡	481
第379図	第87・94・121号井戸出土遺物	446	第416図	第23号柵列跡	482
第380図	新屋敷遺跡D区中・近世の遺構配置図	448	第417図	第24号柵列跡	483
第381図	第14号掘立柱建物跡	449	第418図	第25号柵列跡	484
第382図	第15号掘立柱建物跡・出土遺物	450	第419図	第26号柵列跡	485
第383図	第16号掘立柱建物跡	451	第420図	井戸(1)	487
第384図	第17号掘立柱建物跡出土遺物	452	第421図	井戸(2)	488
第385図	第17号掘立柱建物跡	453	第422図	井戸出土遺物(1)	491
第386図	第18号掘立柱建物跡	454	第423図	井戸(3)	492
第387図	第19号掘立柱建物跡出土遺物	454	第424図	井戸出土遺物(2)	494
第388図	第19号掘立柱建物跡	455	第425図	井戸(4)	495
第389図	第20号掘立柱建物跡	457	第426図	井戸(5)	497
第390図	第21号掘立柱建物跡	458	第427図	井戸出土遺物(3)	498
第391図	第21号掘立柱建物跡出土遺物	459	第428図	井戸出土遺物(4)	499
第392図	第22号掘立柱建物跡	460	第429図	井戸(6)	500
第393図	第23号掘立柱建物跡	461	第430図	井戸(7)	503
第394図	第24号掘立柱建物跡	462	第431図	溝(1)	508
第395図	第25号掘立柱建物跡	463	第432図	溝(2)	510
第396図	第26号掘立柱建物跡	464	第433図	溝(3)	512
第397図	第27号掘立柱建物跡	466	第434図	溝(4)	514
第398図	第27号掘立柱建物跡出土遺物	467	第435図	溝出土遺物(1)	516
第399図	第28号掘立柱建物跡出土遺物	467	第436図	溝出土遺物(2)	517
第400図	第28号掘立柱建物跡	468	第437図	ピット群配置図	520
第401図	第29号掘立柱建物跡・出土遺物	469	第438図	不明遺構	522
第402図	第30号掘立柱建物跡	470	第439図	土壇(1)	524
第403図	第31号掘立柱建物跡	471	第440図	土壇(2)	525

第441図	土壙(3)	526	第469図	土壙(31)	557
第442図	土壙(4)	527	第470図	土壙(32)	558
第443図	土壙(5)	529	第471図	土壙(33)	559
第444図	土壙(6)	530	第472図	土壙(34)	560
第445図	土壙(7)	531	第473図	土壙(35)	561
第446図	土壙(8)	532	第474図	土壙(36)	562
第447図	土壙(9)	534	第475図	土壙(37)	563
第448図	土壙(10)	535	第476図	土壙(38)	564
第449図	土壙(11)	536	第477図	土壙(39)	565
第450図	土壙(12)	537	第478図	土壙(40)	566
第451図	土壙(13)	538	第479図	土壙(41)	567
第452図	土壙(14)	539	第480図	土壙出土遺物(1)	568
第453図	土壙(15)	540	第481図	土壙出土遺物(2)	569
第454図	土壙(16)	541	第482図	土壙出土遺物(3)	570
第455図	土壙(17)	542	第483図	グリッド出土遺物(1)	579
第456図	土壙(18)	543	第484図	グリッド出土遺物(2)	580
第457図	土壙(19)	544	第485図	グリッド出土遺物(3)	581
第458図	土壙(20)	546	第486図	グリッド出土遺物(4)	582
第459図	土壙(21)	547	第487図	グリッド出土遺物(5)	583
第460図	土壙(22)	548	第488図	土器編年図(1)	592
第461図	土壙(23)	549	第489図	土器編年図(2)	593
第462図	土壙(24)	550	第490図	酸火焼成の土器集成	596
第463図	土壙(25)	551	第491図	酸火焼成の土器出土量別分布図	597
第464図	土壙(26)	552	第492図	墨書土器分布図	599
第465図	土壙(27)	553	第493図	江戸以前の遺構配置図	602
第466図	土壙(28)	554	第494図	江戸期の遺構配置図(17世紀後半)	603
第467図	土壙(29)	555	第495図	近世土器出土比率	606
第468図	土壙(30)	556	第496図	17世紀後葉のかわらけ	607

表 目 次

新屋敷遺跡の調査	13	第74号墳出土埴輪観察表	204
器種組成表	17	第75号墳出土遺物観察表	207
石器集中石材組成表	17	第75号墳出土埴輪観察表	208
礫群石材組成表	34	グリッド出土遺物観察表	213
先土器時代石器観察表	39	グリッド出土埴輪観察表	213
グリッド出土石器一覧表	68	第43号墳出土埴輪計測表	215
第101号住居跡出土遺物観察表	72	第58号墳出土埴輪計測表	215
第43号墳出土遺物観察表	80	第60号墳出土埴輪計測表	216
第43号墳出土埴輪観察表	84	第61号墳出土埴輪計測表	217
第46号墳出土遺物観察表	87	第63号墳出土埴輪計測表	217
第55号墳出土遺物観察表	88	第74号墳出土埴輪計測表	218
第56号墳出土遺物観察表	90	第75号墳出土埴輪計測表	218
第57号墳出土遺物観察表	91	新屋敷・生出塚遺跡古墳一覧	233
第58号墳出土遺物観察表	102	第60号墳円筒埴輪分析表	243
第58号墳出土埴輪観察表	102	円筒埴輪編年表	245
第59号墳出土遺物観察表	105	紡錘車出土古墳一覧	255
第59号墳出土埴輪観察表	105	埼玉県内出土鈴鏡一覧	256
第60号墳出土遺物観察表	127	第51号住居跡出土遺物観察表	286
第60号墳出土埴輪観察表	148	第52号住居跡出土遺物観察表	288
第60号墳出土形象埴輪観察表	165	第53号住居跡出土遺物観察表	290
第61号墳出土遺物観察表	168	第54・57号住居跡出土遺物観察表	294
第61号墳出土埴輪観察表	170	第55号住居跡出土遺物観察表	296
第62号墳出土遺物観察表	171	第56号住居跡出土遺物観察表	297
第62号墳出土埴輪観察表	171	第58号住居跡出土遺物観察表	300
第63号墳出土遺物観察表	179	第59号住居跡出土遺物観察表	301
第63号墳出土埴輪観察表	184	第60号住居跡出土遺物観察表	303
第65号墳出土遺物観察表	190	第61号住居跡出土遺物観察表	306
第65号墳出土埴輪観察表	190	第62号住居跡出土遺物観察表	308
第68号墳出土遺物観察表	192	第63号住居跡出土遺物観察表	311
第70号墳出土遺物観察表	194	第64号住居跡出土遺物観察表	315
第71号墳出土遺物観察表	195	第65号住居跡出土遺物観察表	318
第72号墳出土遺物観察表	196	第66号住居跡出土遺物観察表	323
第73号墳出土遺物観察表	199	第67号住居跡出土遺物観察表	324
第73号墳出土埴輪観察表	199	第68号住居跡出土遺物観察表	326
第74号墳出土遺物観察表	201	第69号住居跡出土遺物観察表	328

第70号住居跡出土遺物觀察表	330	第103号住居跡出土遺物觀察表	416
第71号住居跡出土遺物觀察表	334	第105号住居跡出土遺物觀察表	417
第72号住居跡出土遺物觀察表	337	第107号住居跡出土遺物觀察表	420
第73号住居跡出土遺物觀察表	339	第109号住居跡出土遺物觀察表	425
第74号住居跡出土遺物觀察表	341	第110号住居跡出土遺物觀察表	426
第75号住居跡出土遺物觀察表	342	第111号住居跡出土遺物觀察表	429
第76号住居跡出土遺物觀察表	347	第112号住居跡出土遺物觀察表	431
第77号住居跡出土遺物觀察表	347	第113・114号住居跡出土遺物觀察表	433
第78号住居跡出土遺物觀察表	351	第115号住居跡出土遺物觀察表	437
第79号住居跡出土遺物觀察表	355	第116号住居跡出土遺物觀察表	437
第80号住居跡出土遺物觀察表	359	第117号住居跡出土遺物觀察表	437
第81号住居跡出土遺物觀察表	365	第118号住居跡出土遺物觀察表	439
第82号住居跡出土遺物觀察表	366	第119号住居跡出土遺物觀察表	442
第83号住居跡出土遺物觀察表	369	第120号住居跡出土遺物觀察表	442
第84号住居跡出土遺物觀察表	370	第87・94・121号井戸出土遺物觀察表	446
第85号住居跡出土遺物觀察表	373	第15号掘立柱建物跡出土遺物觀察表	450
第86号住居跡出土遺物觀察表	375	第17号掘立柱建物跡出土遺物觀察表	452
第87号住居跡出土遺物觀察表	378	第19号掘立柱建物跡出土遺物觀察表	455
第88号住居跡出土遺物觀察表	382	第21号掘立柱建物跡出土遺物觀察表	459
第89号住居跡出土遺物觀察表	383	第27号掘立柱建物跡出土遺物觀察表	467
第90号住居跡出土遺物觀察表	387	第28号掘立柱建物跡出土遺物觀察表	467
第91号住居跡出土遺物觀察表	389	第29号掘立柱建物跡出土遺物觀察表	468
第92号住居跡出土遺物觀察表	392	第15号柵列跡出土遺物觀察表	474
第93号住居跡出土遺物觀察表	394	第18号柵列跡出土遺物觀察表	478
第94号住居跡出土遺物觀察表	401	井戸出土遺物觀察表	505
第95号住居跡出土遺物觀察表	401	溝出土遺物觀察表	518
第96号住居跡出土遺物觀察表	404	土壙出土遺物觀察表	567
第97号住居跡出土遺物觀察表	407	土壙一覽表	571
第98号住居跡出土遺物觀察表	407	グリッド出土遺物觀察表	585
第99号住居跡出土遺物觀察表	409	新旧対照表	587
第102号住居跡出土遺物觀察表	413	近世土器組成表	606

図版目次

- 図版1 新屋敷遺跡全景
- 図版2 新屋敷遺跡D区全景
新屋敷遺跡D区調査前
- 図版3 新屋敷遺跡D区全景
- 図版4 表土除去作業、事務所設営、作業風景
- 図版5 作業風景、大蔵省鴻巣宿舍
- 図版6 石器集中7～9、礫群11～17
- 図版7 石器集中9・礫群14～16、尖頭器出土状況、
基本土層
- 図版8 第121号住居跡、炉跡、第420号土壙
- 図版9 縄文時代の土壙
- 図版10 第101号住居跡、遺物出土状況、炉跡
- 図版11 第43号墳、遺物出土状況
- 図版12 第43号墳土器集中1・2、円筒埴輪
- 図版13 第43号墳円筒埴輪出土状況、円筒埴輪
- 図版14 第46号墳、土師器坏
- 図版15 第55号墳、周溝土層断面、土師器坏・埴
- 図版16 第56号墳、周溝土層断面、土師器坏
- 図版17 第57号墳、土師器坏
- 図版18 第58号墳、土師器坏・甕、線刻画紡錘車
- 図版19 第58号墳円筒埴輪出土状況、円筒埴輪
- 図版20 第59号墳、周溝土層断面、土師器坏
- 図版21 第60号墳
- 図版22 第60号墳前上部土層断面、後円部土層断面、
括れ部土層断面
- 図版23 第60号墳土器集中1、土器集中2
- 図版24 第60号墳土師器鉢・甕
- 図版25 第60号墳紡錘車・U字形刃先
- 図版26 第60号墳拡大範囲3、円筒埴輪
- 図版27 第60号墳円筒埴輪
- 図版28 第60号墳円筒埴輪、朝顔形埴輪
- 図版29 第61号墳、周溝土層断面、土師器坏・紡錘車・
刀子
- 図版30 第62号墳、周溝土層断面
- 図版31 第63号墳、周溝土層断面
- 図版32 第63号墳土器集中1、土師器坏・直口壺、
須恵器甕
- 図版33 第63号墳土器集中2、土師器坏・甕
- 図版34 第63号墳土師器壺、紡錘車、円筒埴輪
- 図版35 第64号墳、第65号墳、周溝土層断面
- 図版36 第65号墳土器集中1・2、土師器坏
- 図版37 第66号墳、第67号墳、第68号墳
- 図版38 第69号墳、第70号墳、第71号墳
- 図版39 第72号墳、周溝土層断面、土師器坏
- 図版40 第73号墳、周溝土層断面、土師器小型壺
- 図版41 第74号墳、周溝土層断面
- 図版42 第74号墳周溝土層断面、土師器坏・甕
- 図版43 第75号墳、周溝土層断面、紡錘車
- 図版44 第75号墳円筒埴輪、第76号墳、周溝土層断面
- 図版45 全景、第51号住居跡、カマドa
- 図版46 第51号住居跡カマドb・c、第52号住居跡
- 図版47 第52号住居跡カマド遺物出土状況、第53号住
居跡、カマド
- 図版48 第54号住居跡、カマド遺物出土状況、第55号
住居跡
- 図版49 第55号住居跡カマド遺物出土状況、第56・57
号住居跡
- 図版50 第57号住居跡カマド遺物出土状況、第58号住
居跡遺物出土状況、カマド
- 図版51 第58号住居跡掘形、第59号住居跡、カマド
- 図版52 第60号住居跡遺物出土状況、カマド遺物出土
状況、第61号住居跡
- 図版53 第61号住居跡カマドa・b遺物出土状況、第62
号住居跡
- 図版54 第62号住居跡カマド遺物出土状況、第63号住
居跡、遺物出土状況
- 図版55 第63号住居跡カマド遺物出土状況、第64号住
居跡、遺物出土状況
- 図版56 第64号住居跡カマドa、カマドb・c、カマド
b・c遺物出土状況

- 図版57 第64号住居跡遺物出土状況、掘形、第65号住居跡
- 図版58 第65号住居跡遺物出土状況、カマド、カマド遺物出土状況
- 図版59 第65号住居跡遺物出土状況、第66号住居跡、カマド a・b
- 図版60 第66号住居跡遺物出土状況、第67号・第68号住居跡
- 図版61 第68号住居跡カマド・第68号住居跡遺物出土状況、第69号住居跡
- 図版62 第69号住居跡カマド・第69号住居跡遺物出土状況、第70号住居跡
- 図版63 第70号住居跡カマド、第71号住居跡、遺物出土状況
- 図版64 第71号住居跡カマド a・カマド b 遺物出土状況、第72号住居跡
- 図版65 第72号住居跡カマド、遺物出土状況、第73号住居跡
- 図版66 第73号住居跡カマド、第74号住居跡、遺物出土状況
- 図版67 第74号住居跡カマド、第75号・第76号住居跡
- 図版68 第76号住居跡カマド a、カマド b 遺物出土状況、第77号住居跡
- 図版69 第78号住居跡、第78号住居跡カマド遺物出土状況、第79号住居跡
- 図版70 第79号住居跡・カマド遺物出土状況、第80号住居跡
- 図版71 第80号住居跡カマド、遺物出土状況、全景
- 図版72 第81号住居跡、カマド a、カマド b
- 図版73 第81号住居跡カマド c、第82号住居跡、カマド b
- 図版74 第83号・第84号住居跡、第84号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版75 第85号住居跡、カマド、第86号住居跡
- 図版76 第86号住居跡カマド、第86号住居跡遺物出土状況、炭化物出土状況
- 図版77 第87号住居跡、第88・89号住居跡遺物出土状況、第88号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版78 第88号住居跡遺物出土状況、第89号住居跡カマド a・カマド b 遺物出土状況
- 図版79 第90号住居跡、カマド、カマド遺物出土状況
- 図版80 第90号住居跡遺物出土状況、第91号住居跡、カマド
- 図版81 第92号住居跡、カマド、炉跡
- 図版82 第93号住居跡、カマド、第94・95号住居跡
- 図版83 第94号・第95号住居跡カマド、第96・104号住居跡
- 図版84 第96・104号住居跡カマド、第97号住居跡
- 図版85 第97号住居跡カマド遺物出土状況、第98号住居跡、カマド遺物出土状況
- 図版86 第99号住居跡遺物出土状況、カマド、第102号住居跡
- 図版87 第102号住居跡カマド、第103号住居跡、カマド
- 図版88 第103号住居跡カマド、住居跡遺物出土状況、第105号住居跡
- 図版89 第106号住居跡、カマド、第107号住居跡
- 図版90 第107号住居跡カマド遺物出土状況、第108号住居跡、カマド
- 図版91 第109号住居跡、カマド a、b
- 図版92 第109号住居跡遺物出土状況、第110号住居跡、カマド
- 図版93 第111号住居跡、カマド、第112号住居跡
- 図版94 第113・114号住居跡、第113号・第114号住居跡カマド a
- 図版95 第114号住居跡カマド b、第115・116号住居跡、第115号住居跡カマド a・b 遺物出土状況
- 図版96 第115号住居跡遺物出土状況、第116号住居跡カマド、第117号住居跡
- 図版97 第117号住居跡カマド遺物出土状況、第118号・第119号住居跡
- 図版98 第119号住居跡カマド、第119号住居跡遺物出土状況、
- 図版99 第120号住居跡、第120号住居跡カマド a、b

- 図版100 第14～21号掘立柱建物跡
- 図版101 第22号掘立柱建物跡、土層断面、第23・25～27号掘立柱建物跡、第27号掘立柱建物跡柱穴内遺物出土状況
- 図版102 第28号掘立柱建物跡、土層断面、第29～31号掘立柱建物跡、第14～16・22・23号柵列跡
- 図版103 第57～59号井戸、第60号井戸遺物出土状況、第61～64号井戸
- 図版104 第64号井戸断面・遺物出土状況、第65・67～70・73・74号井戸
- 図版105 第75・77～80・83・84・86号井戸
- 図版106 第88～95号井戸
- 図版107 第96～103号井戸
- 図版108 第104号井戸、第105・120号井戸遺物出土状況、第106～111号井戸
- 図版109 第112～121号井戸
- 図版110 第70・86・87号溝、遺物出土状況、90号溝、第142号溝遺物出土状況、第233・252・340号土壙
- 図版111 第253・271・258～260・262～264・267号土壙
- 図版112 第268・269・274・275・277号土壙、第278号土壙遺物出土状況、第280・283号土壙
- 図版113 第285・288・289・299・300・291・294～296号土壙
- 図版114 第301号土壙遺物出土状況、第302・303・309～314号土壙
- 図版115 第321・323・324・326・327・330・331・341、391号土壙
- 図版116 第392・393・397・398・984・399・400・407、445号土壙、596号土壙遺物出土状況
- 図版117 第602・618・682・652・664・713・721・722号土壙
- 図版118 第723号土壙、第793号土壙遺物出土状況、土壙群、第9号地下式壙、ピット(U-10G)P10、(AA-20G)P1遺物出土状況
- 図版119 先土器時代の石器(1)
- 図版120 先土器時代の石器(2)
- 図版121 先土器時代の石器(3)
- 図版122 グリッド出土の縄文土器(1)
グリッド出土の縄文土器(2)
- 図版123 第121号住居跡出土縄文土器
第420号土壙出土縄文土器
- 図版124 グリッド出土の縄文土器(3)
グリッド出土の縄文土器(4)
- 図版125 グリッド出土の縄文土器(5)
グリッド出土の石器
- 図版126 古墳出土土器(1)
- 図版127 古墳出土土器(2)
- 図版128 古墳出土土器(3)
- 図版129 古墳出土土器(4)
- 図版130 古墳出土土器(5)
- 図版131 古墳出土土器(6)
- 図版132 古墳出土土器(7)
- 図版133 古墳出土土器(8)
- 図版134 古墳出土土器(9)
- 図版135 グリッド出土土器
グリッド出土円筒埴輪
- 図版136 古墳出土円筒埴輪(1)
- 図版137 古墳出土円筒埴輪(2)
- 図版138 古墳出土円筒埴輪(3)
- 図版139 古墳出土円筒埴輪(4)
- 図版140 古墳出土円筒埴輪(5)
- 図版141 古墳出土円筒埴輪(6)
- 図版142 古墳出土円筒埴輪(7)
- 図版143 古墳・グリッド出土形象埴輪
- 図版144 第60号墳出土円筒埴輪(1)
- 図版145 第60号墳出土円筒埴輪(2)
- 図版146 第60号墳出土円筒埴輪(3)
- 図版147 第60号墳出土円筒埴輪(4)
- 図版148 第60号墳出土円筒埴輪(5)
- 図版149 第60号墳出土円筒埴輪(6)
- 図版150 第60号墳出土円筒埴輪(7)
- 図版151 第60号墳出土円筒埴輪(8)

- 図版152 第60号墳出土円筒埴輪 (9)
 図版153 第60号墳出土円筒埴輪 (10)
 図版154 第60号墳出土円筒埴輪 (11)
 図版155 第60号墳出土円筒埴輪 (12)
 図版156 第60号墳出土円筒埴輪 (13)
 図版157 第60号墳出土円筒埴輪 (14)
 図版158 第60号墳出土土形象埴輪 (1)
 図版159 第60号墳出土土形象埴輪 (2)
 図版160 第60号墳出土土形象埴輪 (3)
 図版161 第60号墳出土土形象埴輪 (4)
 図版162 第60号墳出土土形象埴輪 (5)
 図版163 第60号墳出土土形象埴輪 (6)
 図版164 第60号墳出土土形象埴輪 (7)
 図版165 第60号墳出土土形象埴輪 (8)
 図版166 第60号墳出土土形象埴輪 (9)
 図版167 第60号墳出土土形象埴輪 (10)
 図版168 古墳出土鉄製品 (1)
 図版169 古墳出土鉄製品 (2)・鈴鏡
 図版170 古墳出土紡錘車
 図版171 住居跡出土遺物 (1)
 図版172 住居跡出土遺物 (2)
 図版173 住居跡出土遺物 (3)
 図版174 住居跡出土遺物 (4)
 図版175 住居跡出土遺物 (5)
 図版176 住居跡出土遺物 (6)
 図版177 住居跡出土遺物 (7)
 図版178 住居跡出土遺物 (8)
 掘立柱建物跡出土遺物 (1)
 図版179 井戸出土遺物 (1)
 図版180 井戸出土遺物 (2)
 溝出土遺物 (1)
 図版181 溝出土遺物 (2)
 土壙出土遺物 (1)
 グリッド出土遺物 (1)
 図版182 グリッド出土遺物 (2)
 図版183 住居跡出土遺物 (9)
 図版184 住居跡出土遺物 (10)
 掘立柱建物跡出土遺物 (2)
 井戸出土遺物 (3)
 図版185 井戸出土遺物 (4)
 土壙出土遺物 (2)
 グリッド出土遺物 (3)
 図版186 井戸出土遺物 (5)
 溝出土遺物 (3)
 図版187 住居跡出土遺物 (11)
 図版188 住居跡出土遺物 (12)
 図版189 住居跡出土遺物 (13)
 土壙出土遺物 (3)
 グリッド出土遺物 (4)
 図版190 土壙出土遺物 (4)
 図版191 土壙出土遺物 (5)
 住居跡出土遺物 (14)
 図版192 住居跡出土遺物 (15)
 図版193 住居跡出土遺物 (16)
 溝出土遺物 (4)
 グリッド出土遺物 (5)
 図版194 住居跡出土遺物 (16)
 土壙出土遺物 (6)
 グリッド出土遺物 (6)
 井戸出土遺物 (6)
 図版195 住居跡出土金属器 (1)
 図版196 住居跡出土金属器 (2)
 図版197 住居跡出土金属器 (3)
 図版198 住居跡出土金属器 (4)
 土壙・溝出土金属器
 古銭 (1)
 図版199 古銭 (2)
 図版200 住居跡出土砥石
 その他の遺構出土砥石

I 調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

鴻巣市東4丁目の農事試験場跡地利用については、国、埼玉県、埼玉県住宅供給公社により開発事業が計画され、各々の施設建設計画が進行しているところである。大蔵省では、平成6年度及び7年度の宿舍設置計画に基づき、当事業地における宿舍建設が計画された。

埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課では、こうした各種開発事業に対応するため、開発部局と事前協議を行い、文化財保護と開発事業との調整を進めているところである。

当事業にかかる埋蔵文化財包蔵地の取扱いについては、農事試験場跡地開発に係る事業者を代表して、埼玉県住宅供給公社理事長より、平成元年11月20日付け元埼玉公企第109号で埋蔵文化財の所在についての照会があった。開発予定地には新屋敷遺跡が所在することが既に知られていたが、遺構・遺物の密度、範囲等について不明な点があったため、試掘調査を実施した。文化財保護課ではその結果を持って、平成元年12月25日付け教文第1274号で、埋蔵文化財の所在とその取扱いについて、次のように回答した。

1 埋蔵文化財の所在

名称	種別	時代	所在地
新屋敷遺跡 (No.13-024)	集落跡 古墳群	縄文、古墳 奈良・平安 近世	鴻巣市東4 丁目地内

2 取り扱い

上記の埋蔵文化財包蔵地については現状で保存することが望ましいが、事業計画上やむを得ず現状を変更する場合は、事前に文化財保護法第57条の3の規定に基づいて文化庁長官あての発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施してください。

なお、発掘調査の実施については当教育局指導部文化財保護課と別途協議してください。

発掘調査については、調査実施機関である財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団、大蔵省関東財務局、文化財保護課の三者により、調査方法、期間、経費等を中心に協議が行われ、その結果、平成6年度は平成6年7月1日から平成7年3月31日まで、平成7年度は平成7年4月1日から同年9月30日までの予定で発掘調査が実施されることで協議が整った。

各年度における発掘調査に先立って、事業者側から文化財保護法第57条の3第1項の規定に基づく発掘通知が、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団からは同法57条第1項の規定に基づく発掘調査届が提出され、発掘調査が実施された。

なお、調査届に対する指示通知番号は、次の通りである。

平成6年8月11日付け 教文第2-81号

平成7年4月18日付け 教文第2-4号

(文化財保護課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

新屋敷遺跡D区の発掘調査は、平成6年7月1日から平成7年9月30日にかけて行われた。

平成6年7月1日から発掘調査の準備を始め、7月末までにプレハブ用地の調査を終了して、設営を行った。また併行して調査区内に存在する雑木の伐採や片づけ、農業試験場跡地に雛壇状に残されたコンクリートの擁壁の撤去等を行い、8月下旬頃に終了した。

整地が完了してから、表土除去を始めたが、調査区内で残土を反転させる必要があり、調査区内の約6割の面積の表土除去を行って9月末頃に終了した。

調査は表土除去と併行して行われたが、本格的には10月に入ってからとなった。調査はプレハブ事務所の出入り口や交通状況を考慮し、西側から行った。D区からは予想以上に遺構・遺物が多く検出され、新屋敷遺跡では初めて前方後円墳の存在も明らかになった。

平成7年3月18日には現地説明会を行い、みぞれ混じりの寒風の中、県内外から多くの参加者を得、改めて本遺跡に対する関心の高さが窺えた。

2月の中旬頃までに調査区の西半分(前方後円墳の一部を除く)の調査を終了、航空写真測量を撮影した。3月中旬頃までに埋め戻しと、残土の反転、東半分の調査区の表土除去を終了し、確認調査と合わせて調査を進めた。

平成7年度は、前年度に調査途中であった前方後円墳の東側部分から調査を開始し、順次東側へと進め、先土器時代を除く調査を8月末までに終了した。

9月よりC区から続く、調査区北東部の谷頭側に広がる先土器時代の調査を開始した。

9月下旬までに遺構図等のチェックを終えた後、航空写真撮影等を行い、9月末までに調査のすべてを終了した。

(2) 整理作業

整理作業は平成8年4月1日～平成10年3月31日まで行った。

平成8年4月1日から図面整理と出土遺物の水洗・注記を行った。図面整理は併行して、第二原図を作成した。水洗・注記は7月末で終了し、8月からは平安時代以降の遺物の分類作業を行った。その後接合・復元・拓本採りを行い、平安時代～江戸時代の接合・復元は10月中旬までにほぼ終了し、実測図の作成を開始した。

10月からは平安時代の住居跡の第二原図の作成を開始し、順次トレースに入った。拓本採り及び平安時代以降の遺物実測も翌年3月までに終了した。また、平安時代以降の接合・復元が終わると同時に、古墳時代の遺物を分類した後、接合・復元も進め、翌年3月に終了した。

平成9年4月からは、平成8年度に作成した第二原図及び遺物のトレースを行い、版下作成を行った。同時に、古墳時代後期の遺物の実測を開始し、11月上旬に終了した。

4～7月は先土器時代、縄文時代の図面整理を行うと共に、石器と土器の接合作業を行った。また、古墳時代前期の出土遺物も実測を開始した。

8～9月は先土器時代の石器の実測と、縄文時代の拓本採りを行った。また、遺構の版組も同時に進行し、大部分を終了した。

11～12月上旬までには遺物・先土器・縄文時代の版組みと写真撮影が、12月下旬までには先土器・縄文時代の版組も終了した。また、併行して行われていた原稿執筆も12～1月上旬までに終了して、全体の割付もほとんどなく、終了した。2月上旬には編集も終了して印刷校正に入り、3月31日に本報告書を刊行した。

3. 発掘調査、整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査（平成6・7年度）

理事長	荒井 桂
副理事長	富田 真也
専務理事	栃原 嗣雄 (H6)
専務理事	吉川 國男 (H7)
常務理事(兼)管理部長	加藤 敏昭 (H6)
常務理事(兼)管理部長	新井 秀直 (H7)
理事(兼)調査部長	小川 良祐

(2) 整理事業（平成8・9年度）

理事長	荒井 桂
副理事長	富田 真也
専務理事	吉川 國男 (H8)
専務理事	塩野 博 (H9)
常務理事(兼)管理部長	稲葉 文夫
理事(兼)調査部長	小川 良祐 (H8)
理事(兼)調査部長	梅沢 太久夫 (H9)

<管理部>

庶務課長	及川 孝之
主査	市川 有三
主任	長滝 美智子 (H7)
主事	長滝 美智子 (H6)
主事	菊池 久
専門調査員(兼)経理課長	関野 栄一
主任	江田 和美
主任	福田 昭美 (H7)
主事	福田 昭美 (H6)
主任	腰塚 雄二 (H7)
主事	腰塚 雄二 (H6)

<管理部>

庶務課長	依田 透
主査	西沢 信行
主任	長滝 美智子
主任	腰塚 雄二 (H9)
主事	菊池 久 (H8)
専門調査員(兼)経理課長	関野 栄一
主任	江田 和美
主任	福田 昭美
主任	腰塚 雄二 (H8)
主任	菊池 久 (H9)

<調査部>

調査部副部長	高橋 一夫
調査第四課長	酒井 清治
主任調査員	昼間 孝志
主任調査員	西口 正純 (H7)
主任調査員	田中正夫
調査員	熊澤 孝之 (H6)

<資料部>

資料部長	梅沢 太久夫 (H8)
資料部長	谷井 彪 (H9)
主幹(兼)資料部副部長	谷井 彪 (H8)
主幹(兼)資料部副部長	小久保 徹 (H9)
専門調査員(兼)資料整理第一課長	今泉 泰之 (H8)
専門調査員(兼)資料整理第一課長	坂野 和信 (H9)
主査	昼間 孝志 (H9)
主任調査員	昼間 孝志 (H8)
主任調査員	大谷 徹 (H9)

II 遺跡の立地と環境

新屋敷遺跡は鴻巣市東4丁目に所在し、JR高崎線鴻巣駅の北東約0.9kmに位置する。

鴻巣市は埼玉県の中央よりやや東に位置し、行政区では東は北埼玉郡騎西町、南埼玉郡菖蒲町、西は北足立郡吹上町と荒川を境として比企郡吉見町、南は桶川市・北本市、北は行田市・北埼玉郡川里村に接している。市のほぼ中央部を旧中山道を挟んでJR高崎線と国道17号が縦断し、東部の低地部を上越新幹線が通過している。

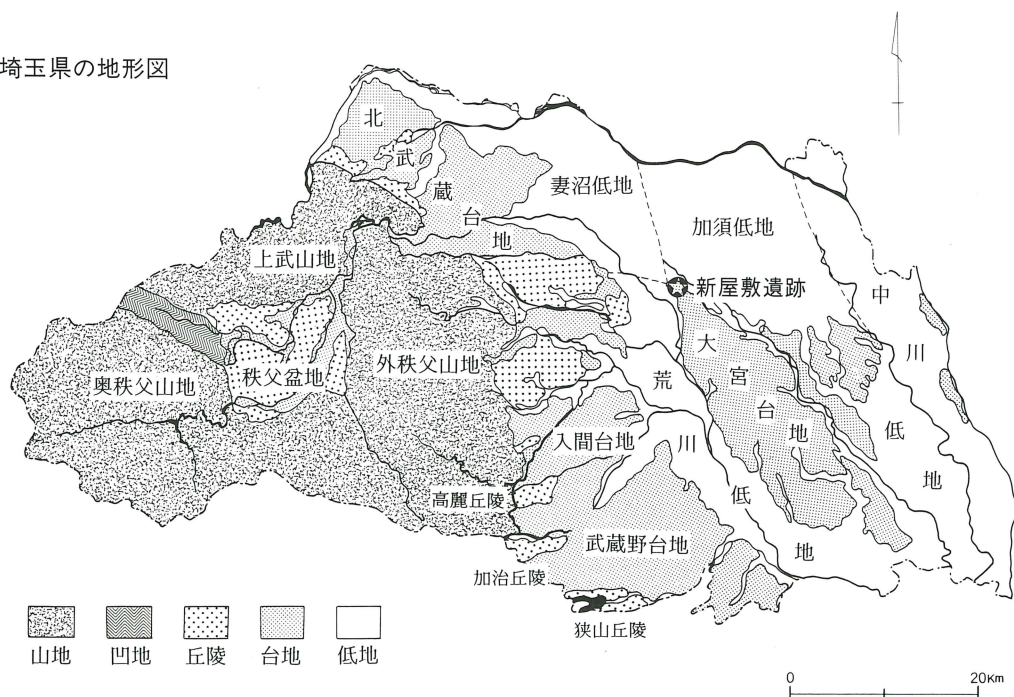
地形的には大宮台地が北西方向に半島状に突き出した位置に所在し、東側を元荒川、西側を荒川がそれぞれ南流し、加須低地、荒川低地と呼ばれる肥沃な沖積低地を形成している。また元荒川流域には自然堤防が帯状に発達し、従来は遺跡の分布が知られていなかった自然堤防上にも、近年の調査により遺跡の発見が相次いでいる。

新屋敷遺跡は元荒川に向かう台地東側斜面に位置し、遺跡の標高は14~19mを測る。調査区内は農林水産省農事試験場の実験圃場として利用されていたため

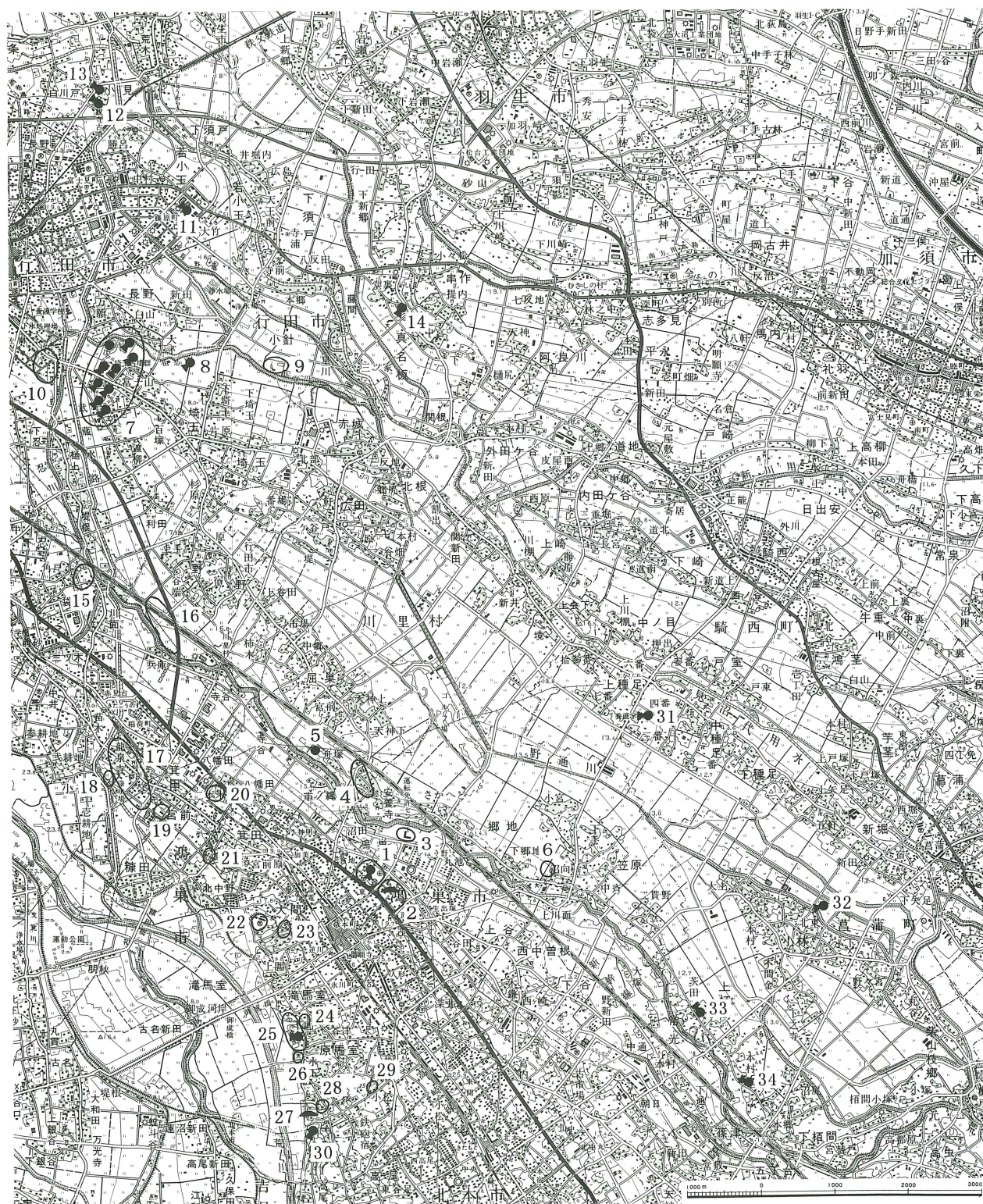
雛壇状の造成が行われ、旧地形が大きく改変されていた。現状では旧地形を復元することは難しいが、標高15~16mラインを境に上位・下位段丘面に大きく分けられる。また調査区北端から隣接するC区にかけて埋没谷が大きく湾入し、地表面からの観察以上に複雑な微地形を形成していることが明らかにされた。

遺跡周辺における台地部の標高は鴻巣市原馬室付近で約25mを測り、北と東に向かってなだらかに傾斜している。一方、台地西側縁辺部は荒川低地と約8mの比高差を測りやや急峻であるが、その崖線も北に行くにつれ低くなり、鴻巣市箕田付近で洪積台地は河川の堆積土によって埋没し、自然堤防状の微高地となっている。また台地の西側縁辺部は、荒川低地に向かって多くの小支谷が発達しているのに対して、東側縁辺部は比較的緩やかに低地部へ移行し、台地部と低地部の境界は不明瞭となる。このような地理的条件から、荒川水系と元荒川水系の台地縁辺部に沿って数多くの遺跡が分布していることが近年の発掘調査で明らかにされている。

第1図 埼玉県の地形図



第2図 先土器～古墳時代の遺跡分布図



1. 新屋敷遺跡 2. 生出塚遺跡 3. 中三谷遺跡 4. 安養寺古墳群 5. 舟塚古墳 6. 笠原古墳群 7. 埼玉古墳群 8. 若王子古墳 9. 小針遺跡 10. 佐間古墳群 11. 三方塚古墳 12. 小見真観寺古墳 13. 虚空蔵山古墳 14. 真名板高山古墳 15. 袋・台遺跡 16. 築道下遺跡 17. 箕田古墳群 18. 富士山南遺跡 19. 宮前本田遺跡 20. 二本木遺跡 21. 登戸新田遺跡 22. 城山遺跡 23. 大間原遺跡 24. 下間遺跡 25. 馬室將軍塚古墳 26. 馬室小校庭内遺跡 27. 馬室埴輪窯跡群 28. 赤台遺跡 29. 権現遺跡 30. 北袋古墳 31. 小沼耕地1号墳 32. 東浦古墳 33. 夫婦塚古墳 34. 天王山塚古墳

先土器時代の遺跡は、大宮台地西縁部の宮前遺跡、城山遺跡、赤台遺跡、東縁部の生出塚遺跡、新屋敷遺跡、埋没台地上の中三谷遺跡等が確認されている。

新屋敷遺跡では昭和61年に市教育委員会が実施した第1次調査でナイフ形石器、尖頭器、大形剥片等が発見されたのを端緒に、C・D区の調査において埋没谷の谷頭を囲む複数の石器集中・礫群の全容が明らかにされた。黒曜石製のナイフ形石器、頁岩製の尖頭器等の石器群がまとまって出土し、大宮台地北部における該期の良好な資料を提供した。

周辺では新屋敷遺跡の南側に隣接する生出塚遺跡からナイフ形石器が出土しているほか、埋没台地上に立地する中三谷遺跡からナイフ形石器、角錐状石器等が検出され、武蔵野台地第IV下層に対比される良好な石器群が出土している。また荒川左岸の赤台遺跡から出土したナイフ形石器は、瀬戸内地方に特徴的な国府型ナイフ形石器に類似しており注目される。

縄文時代の遺跡は、大宮台地の縁辺及び自然堤防上に多くの遺跡が分布している。草創期の遺物には富士山南遺跡から爪形文土器が出土している。早期の遺跡は撚糸文系土器が馬室小校庭内遺跡から、押型文土器が中三谷遺跡から出土し、権現遺跡、赤台遺跡では条痕文系土器を伴う住居跡、炉穴等が調査されている。前期の代表的な遺跡としては赤台遺跡、二本木遺跡、城山遺跡等が知られている。中期の遺跡には中期前半の大間原遺跡、中期後半の赤台遺跡からまとまった資料が出土している。後・晩期の調査例には、埋没台地上の中三谷遺跡と台地部の権現遺跡等からまとまった資料が出土している。

新屋敷遺跡では、今までの調査でC区から草創期の石斧と有茎尖頭器が出土しているほか、中期の浅鉢が埋没谷部分から発見されている。今回のD区の調査では上位段丘面縁辺に中期後半の住居跡1軒が検出されたのをはじめ、中期後半の土器を出土した土壇1基とTピット14基が確認されている。

弥生時代の遺跡が数多く分布する大宮台地南部に比べ、台地北部における当該時期の遺跡分布はやや希薄

となる。市域では登戸新田遺跡で、後期の方形周溝墓が調査されているだけで、現状では集落遺跡の調査はほとんどなされていない。

古墳時代における集落遺跡は、古墳時代前期の住居跡が調査された宮前本田遺跡、大間原遺跡、馬室小校庭内遺跡、下間遺跡、新屋敷遺跡等が知られる。新屋敷遺跡では現在までに前期の住居跡が20軒以上調査され、隣接する生出塚遺跡でも同時期の住居が4軒調査されている。また前期から後期に継続して営まれた集落として行田市築道下遺跡、鴻巣市赤台遺跡、中三谷遺跡、生出塚遺跡等があげられる。

このうち生出塚遺跡は、新屋敷遺跡の南側に隣接し本来は同一の遺跡群と把握されるもので、現在までの調査で埴輪窯跡40基、工房跡2基、粘土採掘壙1基、住居跡9軒、古墳跡18基等が検出されている。県内でも有数の埴輪製作遺跡として知られ、埴輪窯だけでなく工房や工人集落、粘土採掘壙など埴輪生産に関わる一連の遺構が検出され、埴輪製作遺跡の全容が解明されつつある。

生出塚遺跡から埴輪が供給された遺跡として埼玉古墳群、笠原古墳群、小沼耕地遺跡等の元荒川流域の古墳群が知られているほか、千葉県市原市市倉1号墳、市川市法皇塚古墳、東京都赤羽台古墳群等のような遠距離の古墳にも供給された可能性が指摘されている。また荒川に面した大宮台地西縁には馬室埴輪窯跡が所在しており、埴輪の需給関係の様相の解明が今後の大きな課題と言えよう。

周辺の古墳群としては、北西約7.5kmに行田市埼玉古墳群が所在しているのをはじめ、元荒川流域では北から吹上町袋・台古墳群、川里村舟塚古墳、鴻巣市箕田古墳群、生出塚古墳群、安養寺古墳群、笠原古墳群、騎西町小沼耕地遺跡、菖蒲町東浦古墳、栢山古墳群、蓮田市椿山古墳群等が所在している。

一方荒川流域では北から鴻巣市糠田古墳群(消滅)、馬室古墳群、北本市北袋古墳群、中井古墳群、八重塚古墳群、桶川市川田谷古墳群等が台地縁辺部に連綿と分布している。

奈良・平安時代の遺跡は、調査例が少なく、調査例の豊富な県北地域などと比較すると不明瞭である。大宮台地では本遺跡の他に椿山遺跡、氷川神社東遺跡などが大集落として知られている。いずれも平安時代を中心とした集落遺跡であって、奈良時代から平安時代まで継続するような遺跡は極めて少ない。

周辺の奈良時代の遺跡では赤台遺跡、宮前遺跡、荒川附遺跡などが知られている。このうち赤台遺跡では、8世紀前半の住居跡と掘立柱建物跡が検出されている。

平安時代の遺跡では、本遺跡の他に椿山遺跡、大山遺跡、氷川神社東遺跡、東北原遺跡などが知られている。これらの遺跡は、概ね9世紀後半頃に形成され、短期間で消滅する場合もあるが、多くは10世紀後半まで営まれている。本遺跡と椿山遺跡はともに100軒を越える集落であるが、9世紀中頃から本格的に集落の形成が始められ、10世紀後半頃まで継続されている。この間、出土遺物には様々な変化がみられる。遺物の大半は土器であるが、県内産を中心としながらも各地から搬入されている。須恵器は当初は南比企産が主体で、地域によって多少の差はあるが次第に末野産や常陸新治産などの占める比率が高くなる傾向を示している。

また、土師器は甕類が主体で、坏類も極少量含まれている。また、須恵器、土師器の他に酸化焰焼成された土器群も含まれ、時代が新しくなるほど増加する傾向を示している。東北原遺跡や御蔵山中遺跡などでは、酸化焰焼成土器の焼成遺構が多数検出され、須恵器生産後の新たな生産体系の傍証となるものとして注目されている。

一方、この時代で注目されるものに鉄生産があげられる。集落遺跡からはかなりの比率で鉄製品が出土する場合もみられ、本遺跡でも鉄製品の他に小鍛冶炉とみられる遺構が検出されている。鉄製品は平安時代では、集落などを通して土器類と同様に相当流通していた可能性が高く、奈良時代以上に鉄の普及が進んだことを窺わせている。鉄生産に関連する周辺の遺跡では

宮脇遺跡、大山遺跡などの製鉄炉、向原遺跡の炭焼窯などがあげられる。

中世の遺跡では、本遺跡の他に生出塚遺跡、中三谷遺跡、石戸城遺跡、菖蒲城跡などがあげられる。このうち、新屋敷遺跡では調査区境に方形にめぐる箱葉研の溝跡が二重に検出されている。溝跡は堀跡と呼べる規模の大きなもので、北西側が検出されたことになる。さらに北側では、常滑産の甕や中国産の青磁を伴う溝跡も検出されている。

新屋敷遺跡の東約700mに位置する中三谷遺跡では、北辺で約107mの「コ」の字に巡る堀跡が検出されている。堀跡は台形に近い方形館の一部と推定され、13世紀代の常滑産、渥美産の甕が出土している。新屋敷遺跡との関連性は不明瞭であるが、出土遺物の一部は同時代のものであり、今後の検討課題となりそうである。

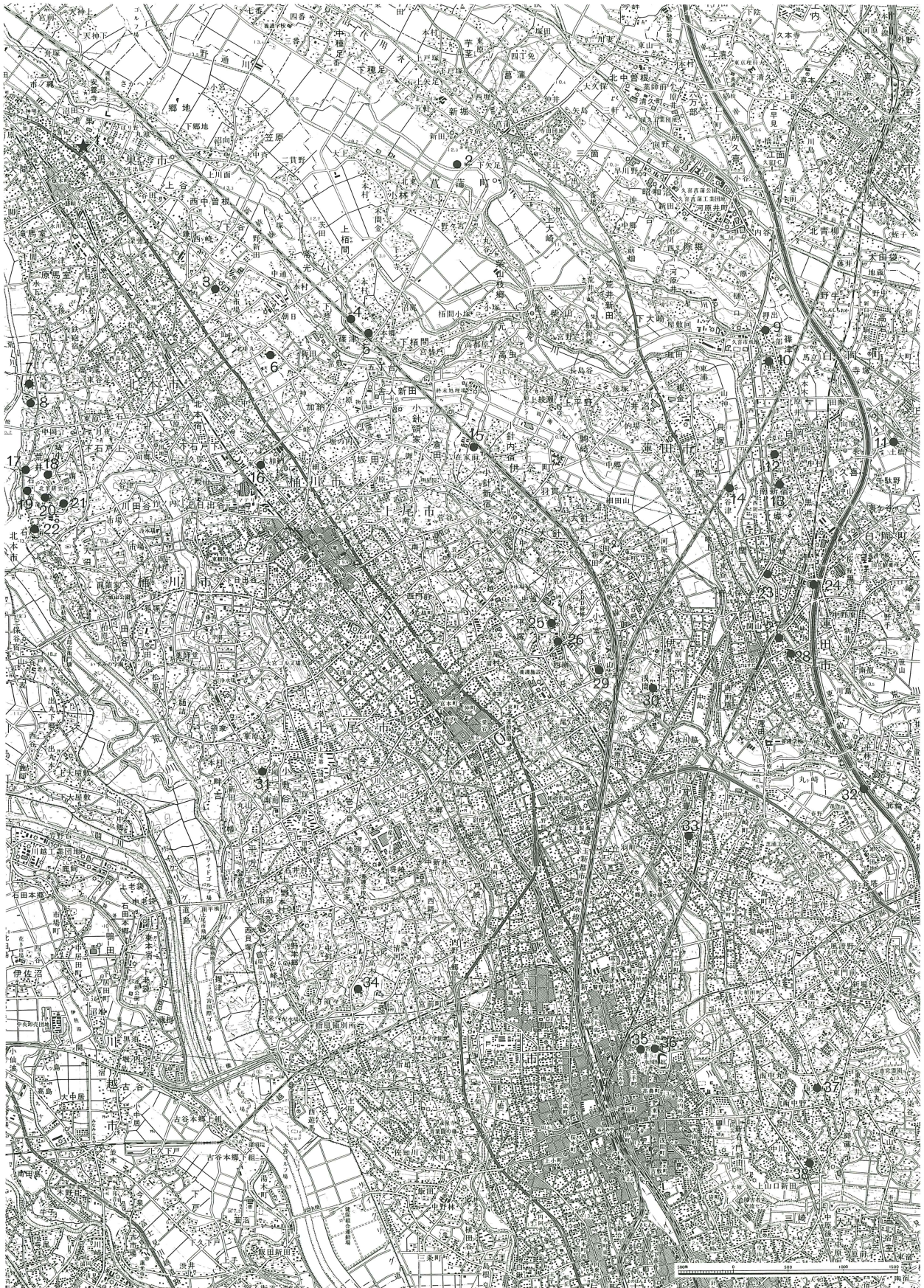
また、新屋敷遺跡では室町時代の遺物として、第二次調査で金銅製懸仏が出土している。

近世の遺跡では、本遺跡の他に鴻巣御殿跡、生出塚遺跡、伊奈氏屋敷跡、関戸多利遺跡などがあげられる。いずれも江戸時代前半を中心とする遺跡で、本遺跡とも近距離にあり、何らかの関連性も想定されるところである。

新屋敷遺跡の位置する鴻巣宿は、中山道と川越から通じる日光御成街道の交わる県内でも有数の宿場町の一つである。また、『江戸図屏風』では、右隻に街道(日光御成街道または中山道)に面して建てられていた鴻巣御殿が描かれ、当時の中心的な名所の一つとして捉えられていたものと推定される。

鴻巣御殿跡は、新屋敷遺跡の南西約1kmに位置し、旧東照宮跡がその中心部分にあると考えられている。鴻巣御殿は文禄二年(1592)に築かれ、主に将軍家が領内視察や鷹狩りの際に宿泊・休憩に使用したものである。その後は鷹狩り場が将軍家から御三家へと移行したのに伴い、主に御三家などが利用したものとみられている。しかし、明暦三年(1657)の大火を機に鴻巣御殿は大半が取り壊されて、部材は江戸城の修

第3図 奈良・平安時代以降の遺跡等分布図



復に用いられている。この頃から各地に築かれた御殿や茶屋は次第に取り壊され、将軍綱吉の元禄年間になって、残存した関東近郊の御殿などとともに廃止されたものと考えられている。

新屋敷遺跡に関しては、『新編武蔵風土記稿』の小名新屋敷の項に「古へ鴻巣御殿在りし頃、御鷹部屋在りし所」と記されており、鷹狩りに関連した施設が周辺に存在したものとされている。

新屋敷遺跡では、掘立柱建物跡、柵列、溝、井戸からなる遺構が多数検出され、出土遺物から多くは17世紀後半頃につくられたことが明らかになった。遺構は検出状況から遺跡全体の東側部分とみられ、さらに西側には主要な建物群などが配置されていたものと想定

される。建物や溝はいくつかの区画された屋敷地を構成しており、ここに17世紀後半を中心とする何らかの施設があったことを示している。しかも、建物などはやや貧弱であるが、明らかに武士階級が使用したとみられる出土遺物が多数あり、屋敷地の区画ごとに似たような傾向が窺われる。しかし、鷹の飼育などに関連する他の動物遺存体などは検出されておらず、これらの遺構が鷹狩りに直結するものであるかは現時点では難しいが、関連する施設の一部としてみることは可能であろう。いずれにしても今回の調査を含めて検出された新屋敷遺跡の遺構は、「鷹部屋」について伝承の信憑性を少し深めたものと言えよう。

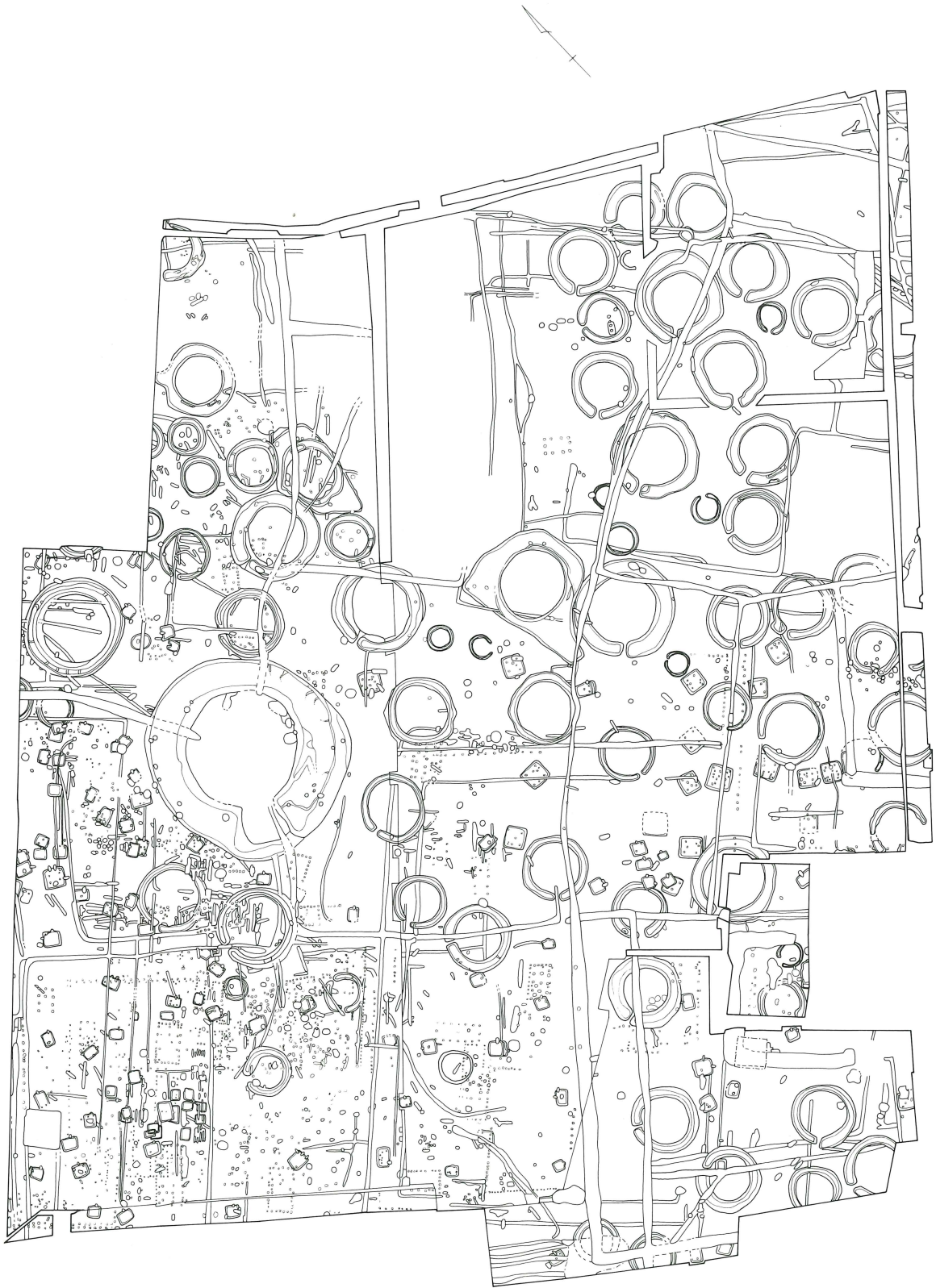
参考文献

- 中島利治 1979 『大山』 埼玉県遺跡発掘調査報告書第23集 埼玉県教育委員会
山崎 武 1981 『生出塚遺跡』 鴻巣市遺跡調査会報告書第2集 鴻巣市遺跡調査会
山崎 武 1985 『赤台遺跡第1・2・3次調査』 鴻巣市遺跡調査会報告書第5集 鴻巣市遺跡調査会
埼玉県教育委員会 1986 『埼玉県埋蔵文化財調査年報－昭和60年度－』
埼玉県教育委員会 1987 『埼玉県埋蔵文化財調査年報－昭和61年度－』
鴻巣市市史編さん調査会 1989 『鴻巣市史 資料編1 考古』 鴻巣市
富田和夫・細田 勝 1989 『中三谷遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第76集
大塚孝司・寺内正明 1989 『椿山遺跡－第3・4次調査－』 蓮田市文化財調査報告書第13集 蓮田市教育委員会
高崎光司 1992 『新屋敷遺跡B区』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第123集
埼玉県教育委員会 1993 『埼玉県埋蔵文化財調査年報－平成3年度－』
山形洋一 1993 『氷川神社東遺跡 氷川神社遺跡 B-17号遺跡』 大宮市遺跡調査会報告書第42集 大宮市遺跡調査会
田中正夫 1994 『新屋敷遺跡A区』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第140集
金子直行・大谷 徹 1996 『新屋敷遺跡C区』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第175集
吉田 稔 1997 『築道下遺跡I』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第188集
栗岡 潤・大屋道則 1998 『築道下遺跡II』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第199集

周辺の遺跡

1. 新屋敷遺跡
2. 菖蒲城跡
3. 上手遺跡
4. 下栢間遺跡
5. 富士塚前遺跡
6. 加藤氏館跡
7. 阿弥陀堂遺跡
8. 宮前I遺跡
9. 志部遺跡
10. 中妻遺跡
11. 宮山遺跡
12. 茶屋遺跡
13. タタラ山遺跡
14. 閨戸足利遺跡
15. 向原遺跡
16. 提灯木山遺跡
17. 市場I遺跡
18. 諏訪山北遺跡
19. 石戸城跡
20. 諏訪山南遺跡
21. 堀ノ内館跡
22. 下宿遺跡
23. 荒川附遺跡
24. 椿山遺跡・御林遺跡
25. 平塚氷川神社遺跡
26. 谷津下I遺跡
27. ささら遺跡
28. 久台遺跡
29. 大山遺跡
30. 伊奈氏屋敷跡
31. 氷川後I遺跡
32. 平林寺遺跡
33. 東北原遺跡
34. 福田陣屋跡
35. 氷川神社
36. 氷川神社東遺跡
37. 御蔵山中遺跡
38. 中氷川神社

第4図 新屋敷遺跡の調査沿革図



0 40m
1:1600

III 遺跡の概要

新屋敷遺跡は、昭和60年に鴻巣市教育委員会による第1次調査が行われたのを契機として、平成7年度までに7次にわたる発掘調査が実施され、これまでに62,000㎡に及ぶ広大な面積が調査されている。

D区の発掘調査は第7次調査にあたり、平成6・7年度に実施された。調査の結果、先土器時代から縄文時代、古墳時代、平安時代、中・近世の多数の遺構が検出され、各時代とも内容の濃い複合遺跡であることが明らかにされた。以下、時代順に調査成果の概要について説明する。

先土器時代は、調査区北側から湾入する埋没谷に面する台地斜面部を中心に3箇所の石器集中と7基の礫群が検出された。石器集中と礫群は重複している場合が多く、大きく3つのグループに分かれる。石器集中は広範囲に漫然と石器が分布していた。

出土した石器群は黒耀石製のナイフ形石器を主体に、角錐状石器、搔・削器、彫器、ドリル、石核等が発見された。

縄文時代は中期後半の住居跡1軒と土壙15基が検出された。住居跡は楕円形の平面形態で、地床戸をもつものである。現状では台地斜面部に単独で分布しているが、隣接する第60号墳の周溝覆土中からはまとまった量の縄文土器が出土しており、本来は台地斜面部を中心に縄文時代の遺構の分布が広がっていたものと想定される。

土壙は中期後半の土器を出土した第420号土壙と14基のTピットが検出された。Tピットは上位段丘面を中心に広く分布している。

古墳時代前期の遺構は、調査区中央の東寄りから住居跡1軒が検出され、C区から広がる当該期の住居跡群の一端が明らかにされた。住居跡は正方形プランで四本柱穴を有する一辺6mほどのものである。

遺物は有段口縁壺、甕、鉢等が少量検出され、五領

式期終末段階に位置づけられる。

古墳時代後期は帆立貝形前方後円墳を含む25基の古墳跡が調査された。これまでの調査成果を踏まえると総数100基を優に越す、元荒川流域最大の古墳群であることが判明した。

帆立貝形前方後円墳の第60号墳以外は、すべて墳丘径10～13mの円墳で、そのほとんどが周溝の一部を掘り残してブリッジを作り出していた。ブリッジは西側を向くものが多く、その周辺からは供献土器や滑石製紡錘車が多数出土している。

出土した土師器は鬼高I式の模倣坏を主体とし、高坏、壺、直口壺、甕などが出土している。他に第60・63号墳からは須恵器の甕や高坏（TK23～47型式併行）が出土しており、古墳の築造時期を示す貴重な資料として注目される。

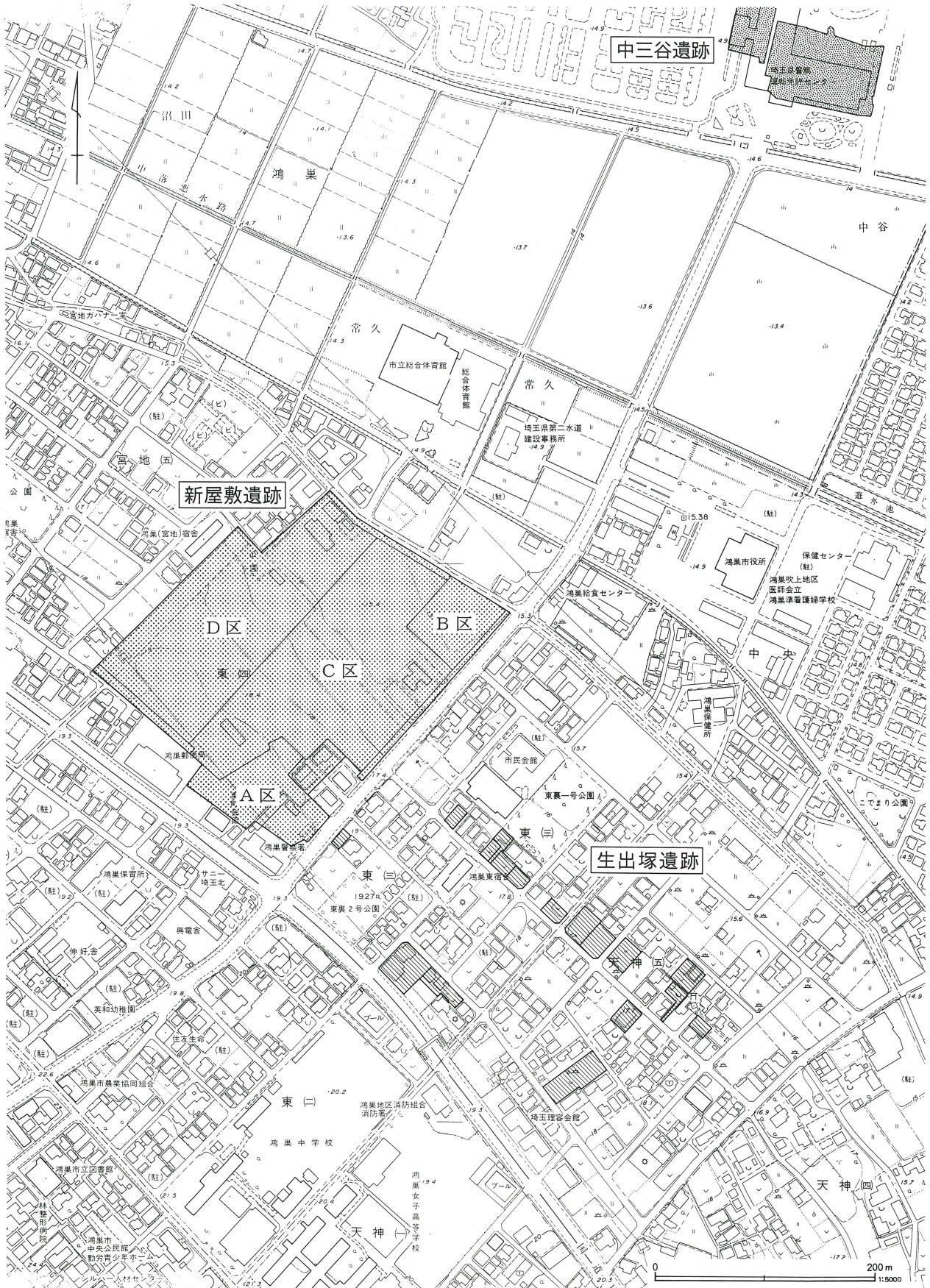
平安時代は上位段丘面を中心に分布する住居跡69軒、井戸3基が調査され、9世紀後半から10世紀前半にかけて営まれた大宮台地北部における中核的な集落の実態が明らかにされた。

中・近世の遺構は掘立柱建物跡18棟、柵列跡13条、井戸、溝、土壙等が検出された。これまでの調査成果から掘立柱建物跡や柵列跡、井戸等によって構成された17世紀後半～18世紀初め頃の屋敷跡と思われる遺構が検出された。

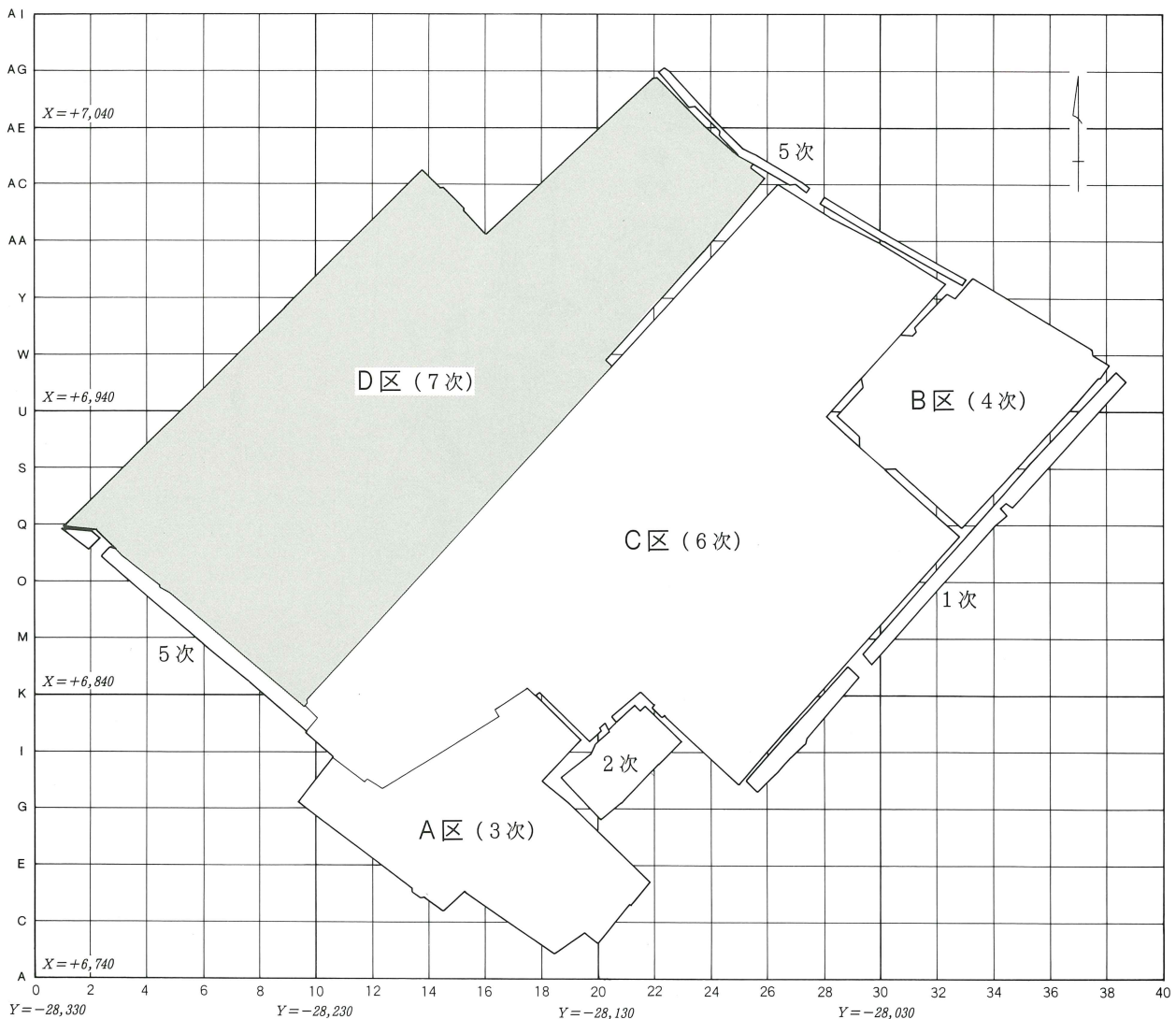
出土遺物は17世紀後半から18世紀前半を中心とした肥前系、瀬戸・美濃系の陶磁器をはじめ、漆椀、かわらけ、鉄製品、古銭等が出土した。

このように新屋敷遺跡は、先土器時代から既に人々が生活の痕跡を残し、その後、縄文時代、古墳時代、平安時代、中・近世の各時代にわたって、ムラとして、古墳群として、さらには屋敷地と性格を大きく変えながら利用されてきたことが、これまでの調査成果により明らかにされている。

第5図 遺跡周辺の地形図



第6図 新屋敷遺跡全体グリッド配置図



発掘主体者

1・2・5次調査：鴻巣市教育委員会

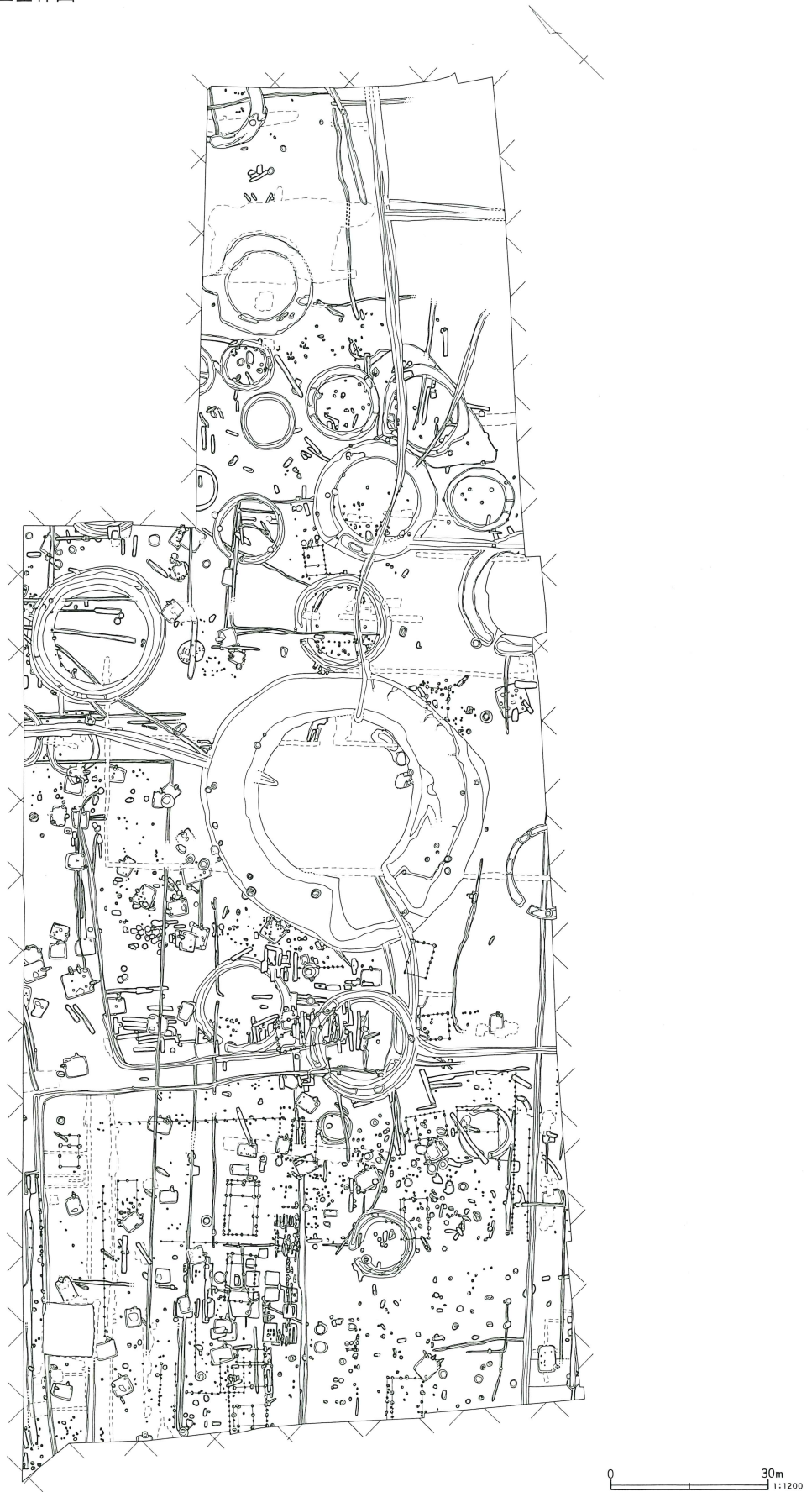
3・4・6・7次調査（A～D区）：財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



新屋敷遺跡の調査

調査地点	所在地	調査期間	面積	発掘主体者	調査原因	調査概要
第1次	東4丁目 504-1	昭60.8.1 ～昭60.10.2	1,200㎡	鴻巣市遺跡調査会	道路建設	旧石器ユニット1、古墳跡3、住居跡3、土壇、溝
第2次	東4丁目 471-3	昭62.3.17 ～昭62.5.20	1,000㎡	鴻巣市遺跡調査会	宅地造成	古墳跡3、住居跡1、埴輪棺1、構堀、柵列跡、井戸、土壇、地下室、溝
第3次 (A区)	東4丁目 384-1	平3.6.1 ～平4.3.31	6,300㎡	埼玉県埋蔵文化財 調査事業団	警察署建設	古墳跡8、住居跡11、掘立柱建物跡1、井戸、土壇、地下式壇、溝
第4次 (B区)	東4丁目 384-1	平3.6.1 ～平4.3.31	4,500㎡	埼玉県埋蔵文化財 調査事業団	保健所建設	古墳跡8、掘立柱建物跡2、土壇、溝
第5次	東4丁目 384-8	平3.12.2 ～平4.2.20	1,721㎡	鴻巣市教育委員会	道路建設	住居跡3、掘立柱建物跡2、柱穴列1、井戸、土壇、溝
第6次 (C区)	東4丁目 384-1・2	平5.4.1 ～平6.7.31	25,670㎡	埼玉県埋蔵文化財 調査事業団	宅地造成	石器集中6、礫群10、古墳跡36、埴輪棺1、住居跡38、掘立柱建物跡10、柵列跡12、井戸、土壇、溝
第7次 (D区)	東4丁目 384-12	平6.7.1 ～平7.9.30	22,000㎡	埼玉県埋蔵文化財 調査事業団	宅地造成	石器集中3、礫群7、古墳跡25、住居跡71、掘立柱建物跡18、柵列跡13、井戸、土壇、溝

第7図 新屋敷遺跡D区全体図



IV 先土器時代の調査

1. 調査の概要

今回の調査で検出された先土器時代の石器群は、隣接するC区と同じく岩宿II期が主体で、石器集中3箇所、礫群7基が検出された。これにより新屋敷遺跡全体で石器集中9箇所、礫群17基を検出したことになる。また黒耀石製の尖頭器がY-14グリッド付近から単独で出土した。

石器集中及び礫群は、調査区の北端からC区中央部に湾入する埋没谷に面した台地斜面部に3つのグループを形成しながら分布していた。C区の調査成果と考え合わせると、埋没谷の谷頭を取り囲むように幾つかのまとまりをもった石器群が、連続して分布する状況が窺われる。

石器集中7は調査区中央東寄りのU・V-18グリッドに位置し、礫群12の分布と重複する。8点の石器が出土し、器種の内訳はナイフ形石器1、角錐状石器1、搔・削器1、剥片2、碎片3である。石材はすべて黒耀石である。

石器集中8は調査区中央のX・Y-15グリッドに位置し、埋没谷から最も離れた台地部に分布する。礫群13と重複し、76点の石器が出土した。黒耀石のナイフ

形石器2、搔・削器2、彫器1や黒色頁岩の石核等が出土した。

石器集中9は調査区北側のAA・AB-18グリッドに位置し、礫群15・16と分布が重複する。今回の調査では最多の90点の石器を数え、黒耀石のナイフ形石器10、搔・削器2等が出土した。このほかに礫群と重複した状態でナイフ形石器、角錐状石器、ドリル、敲石、磨石、石核等が出土している。

礫群は石器集中と同じく3つのグループに分かれて分布し、調査区中央部東側の礫群11・12、調査区中央部の礫群13、調査区北側の礫群14~17に区分される。礫群の密度は、礫群14以外は全体に散漫に広がっている。礫の総数は820点を数えるが、ほとんどが小礫で、接合する資料は少ない。また、接合関係は礫群内で完結するものがほとんどで、礫群間での接合はほとんどみられなかった。

礫群の石材組成は、チャートが55.3%で最も多く、次いで砂岩が29.0%、安山岩が13.1%となる。この三者で全体の97.4%を占め、ほかにホルンフェルス、メノウ、石英、頁岩等がみられた。

2. 層位

土層の堆積は、C区の基本層序に近似している。

第I層：表土（耕作土）

第IIa層：褐色土 ローム粒子を少量含む

第IIb層：暗褐色土 ローム粒子を少量含む

第III層：暗灰褐色土 黒色土ブロック、白色粒子を多量に含む（As-YP層）

第IV層：黄褐色土 ハードローム層（As-OP2混在）

第V層：暗黄褐色土 白色粒子を多く、赤色粒子を少量含む

（IV・V層から石器は出土する）

第VI層：黄褐色土 白色粒子を多く含む

（IV・V層は色調が暗く、黒色帯と思われる）

第VIIa層：暗黄褐色土 白色粒子を多く含む、ブロック状になる部分もあり、赤色粒子を少量含む

第VIIb層：暗黄褐色土 白色粒子が多く混入、黄褐色ブロックを含む

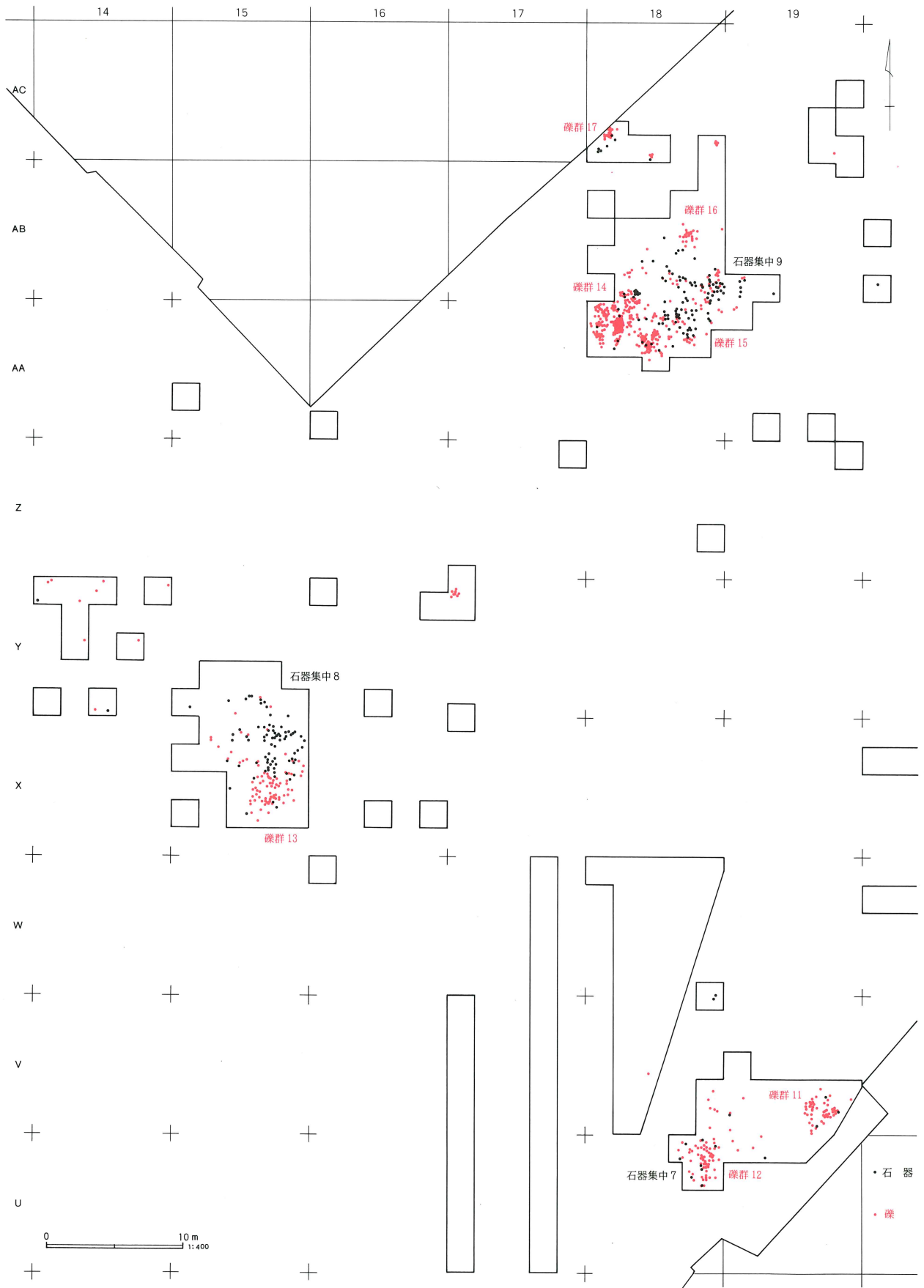
第VIII層：褐色土 赤色粒子、白色粒子、褐色ブロックを含む

第IX層：暗褐色土 赤色粒子を多く含む
（VIII・IX層は黒色帯）

第X層：明黄褐色土 粘性が強い

『新屋敷遺跡C区』（事業団報告書第175集）より転載

第 8 図 先土器時代調査区及び石器・礫分布図



器種組成表

	ナイフ 形石器	角錐状 石器	搔・削器	ドリル	彫器	尖頭器	石核	剥片	碎片	ブランティン グチップ	敲石	磨石	合計
石器集中7	1	1	1					2	3				8
石器集中8	2		2		1		2	26	43				76
石器集中9	10		2				3	29	45			1	90
合計	13	1	5	0	1	0	5	57	91	0	0	1	174

	ナイフ 形石器	角錐状 石器	搔・削器	ドリル	彫器	尖頭器	石核	剥片	碎片	ブランティン グチップ	敲石	磨石	合計
U-19									1				1
V-18								1					1
V-19	1	1						1	1				4
W-18								1					1
X-14	1							1					2
X-15								2	2				4
Y-14			1			1		2					4
Y-15								2			1		3
AA-18	3			1				3	2			2	11
AB-18			1				2	3	4			2	12
AB-19									1				1
AB-20									1				1
AC-18	1								5			1	7
その他	6	2	6	1			7	35	28	2			87
合計	12	3	8	2	0	1	9	51	45	2	1	5	139

石材組成表

	黒曜石	ガラス質 黒色安山岩	黒色頁岩	珪質頁岩	頁岩	チャート	ホルンフェルス	シルト岩	緑色岩	安山岩	合計
石器集中7	8										8
石器集中8	63		7			6					76
石器集中9	82					4	2	1		1	90
合計	153	0	7	0	0	10	2	1	0	1	174

	黒曜石	ガラス質 黒色安山岩	黒色頁岩	珪質頁岩	頁岩	チャート	ホルンフェルス	シルト岩	緑色岩	安山岩	合計
U-19	1										1
V-18			1								1
V-19	2	1	1								4
W-18			1								1
X-14	2										2
X-15	1				1	2					4
Y-14	4										4
Y-15	2								1		3
AA-18	8		1							2	11
AB-18	9						1			2	12
AB-19	1										1
AB-20	1										1
AC-18	6									1	7
その他	81			1		5					87
合計	118	1	4	1	1	7	1	0	1	5	139

3. 石器集中

D区は石器集中3箇所が検出された。それぞれの石器集中は40m前後の距離にあり、礫群と緊密な関係がみられる。

石器集中7 (第9図) U18-22グリッドを中心に南北3m、東西2.5mの範囲に散漫に分布し、礫群12と一部重複する。礫群11が北東側に近接している。石器の総数は8点と少ないが、D区から出土した角錐状石器2点が本石器集中及び礫群11から検出されている。石材はすべて黒耀石が使われている。

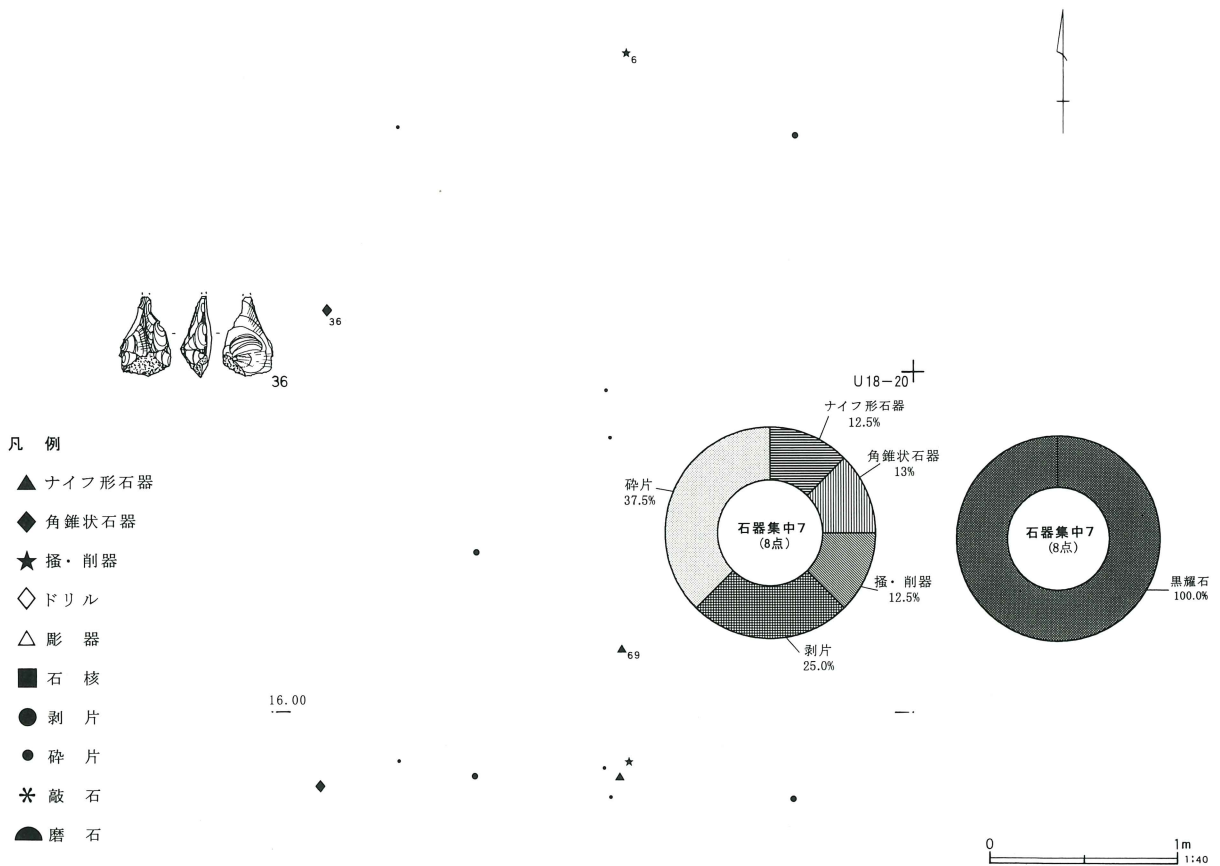
石器集中8 (第10図) X15-24グリッドを中心に南北6m、東西6mの範囲に分布する。礫群13が南側に一部重複している。石器は総数76点と石器集中9と比べ、それほど差がないが、製品の数には明らかな違いがある。出土器種は彫器及び彫器のブランクになると思われるものと、西側に少し離れて敲石が出土している。石器

石材は黒耀石を主体に、黒色頁岩とチャートが用いられている。

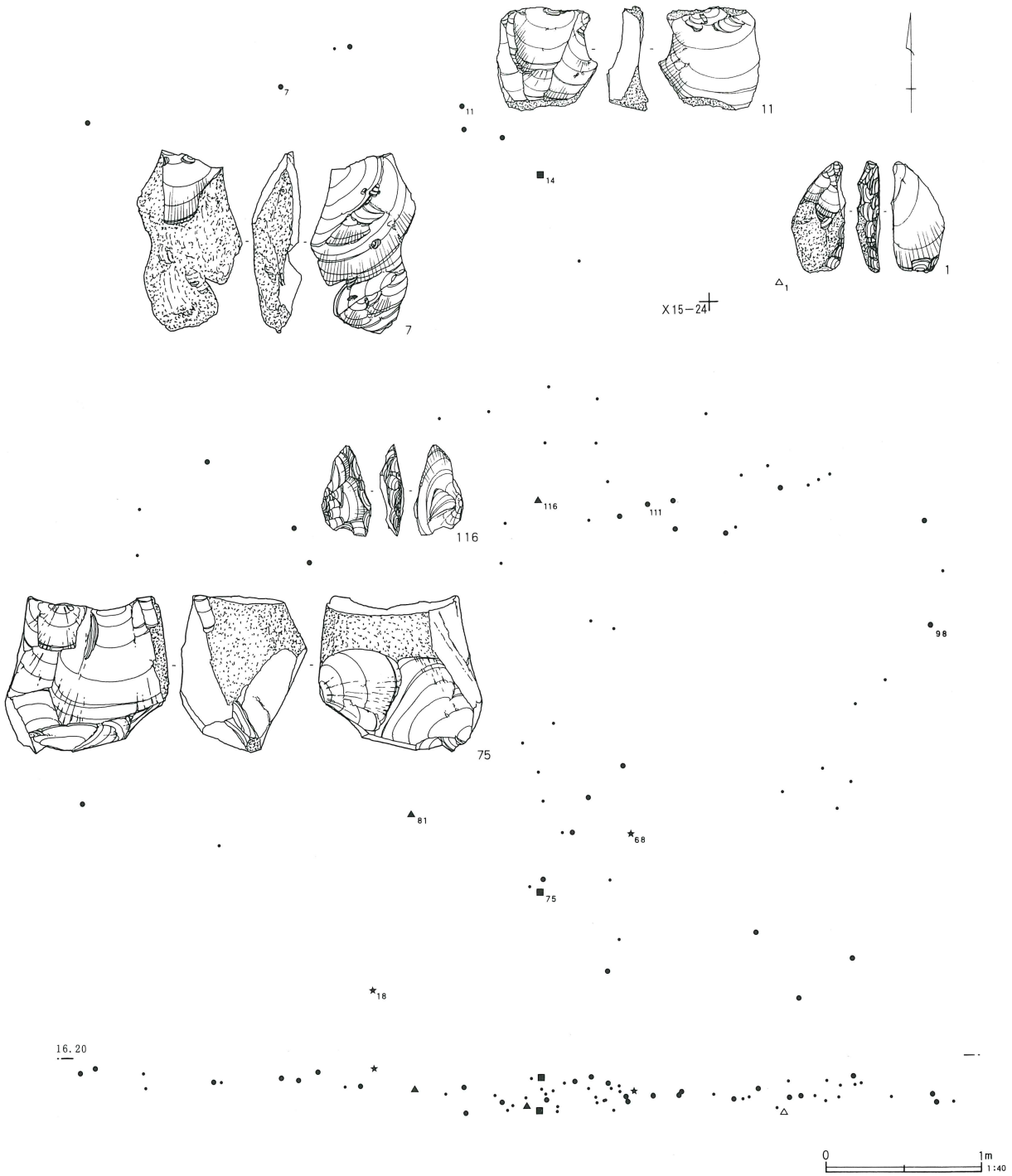
石器集中9 (第11図) AB18-15グリッドを中心に南北6m、東西6mの範囲にまとまっているが、東側に一部重複する礫群14及び南側に一部重複する礫群15の中から石器が検出されている。また、北側に少し離れる礫群17の範囲からもナイフ形石器1点が検出されている。

石器の総数は90点で、器種組成はナイフ形石器10点、搔・削器2点、磨石1点とD区の中心的な存在である。また、一部重複する礫群14・15の中からもナイフ形石器、磨石等が検出されており、本石器集中の広がりや大きさを捉えるべきかもしれない。石器石材は黒耀石を主体にチャート、ホルンフェルスが少量用いられている。

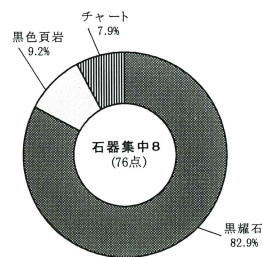
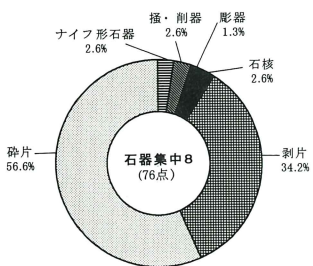
第9図 石器集中7



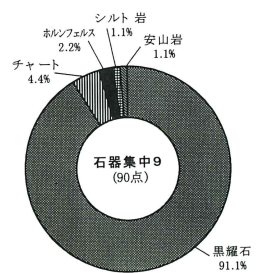
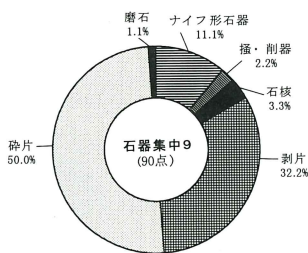
第10図 石器集中 8



石器集中 8



石器集中 9



第11图 石器集中 9



4. 出土石器

新屋敷遺跡D区から検出された石器総数は313点で、その内、石器集中から174点、礫群等のグリッドから52点、古墳の周溝等の覆土から87点が検出されている。古墳等のプライマリーな状態を離れているものも含め、検出された範囲が限定されていることから、ほとんどが(尖頭器を除いて)同一時期のものと思われる。器種の組成については一覧表に記載したので、以下個別の器種の説明を行う(第12～19図)。

ナイフ形石器(1～20) 石器集中から13点、グリッドから12点の合計25点のナイフ形石器が検出された。そのうち欠損のため全体の形状が不明確なものを除いた20点を図示した。石材は古墳の周溝から検出された15を除くとすべて黒耀石が用いられている。

ナイフ形石器の形態は、先端が尖り基部が比較的丸くなる1～15をa類、台形状となり刃部が幅狭で器軸に直交する16～20をb類に大別できる。

a類) 形態的には多様であるが、幾つかの視点から特徴を観察してみる。素材剥片は縦長剥片と横長剥片(幅広剥片)の区別が不明確な部分もあるが、比較的縦に用いる1～4、7、9～15と横に用いられた5、6、8に分けられる。

縦長剥片を素材とするもの。基部方向からの剥片を素材とするものは2、3、4、11～13の6点である。打面を残すものは、原石面を打面とする3、13と剥離面を打面とする4、11、12があり、打面を除去しているのは2だけである。

先端方向からの剥片を素材としているものは1、7、9、10、14の5点ですべて打面は除去されている。

横長(幅広)剥片を素材とするものは、素材剥片が右側縁方向から剥離の5と、左側縁方向からの6、8に分けられる。打面は除去した5、6と原石面の打面を残す8に分かれる。

外形は、左右対称で基部が丸くなるものは1、2、7、11、13の5点がある。両側縁が平行し刃部は偏刃状になるもの3、4、5、6の4点で、内5、6は横長(幅広)

剥片を素材としている。先端が尖頭状になるもの8～10、12の4点で、内8が横長(幅広)剥片を素材としている。平行四辺形となる15は石材がチャートで、出土状況が古墳周溝覆土であるため、同一時期のものであるか疑問である。

刃部は右刃が5、8、9、13、15、左刃が1～4、6、7、10、11、12、14である。

b類) 外形は長方形となる16、18、20と三角形の17、19の2つに分かれる。素材剥片は右側縁方向からの17、18と左側縁方向からの16、19、20がみられる。刃部は右刃が16、17で左刃が18～20である。

角錐状石器(21～24) 21は先端を若干欠損する。外形は最大幅が基端部付近にあり、左右対象で三角形である。横断面は基部付近が台形、先端部は三角形を呈している。

22は先端部を欠損する。外形は基端部が僅かに尖り、左右対称である。調整加工は右側縁が規格的な剥離で丁寧に行われているのに対し、左側縁は1回の剥離によって大まかに作られ、細かい剥離によって整えられている。横断面は基部付近が台形、先端が三角形を呈している。

23は先端部を若干欠損する。上の2点と比べると作りは粗い。横断面は三角形を呈している。

24は正面に原石面、裏面に主要剥離を大きく残し、調整加工は右側縁の一部に施されている。角錐状石器の未製品と思われる。

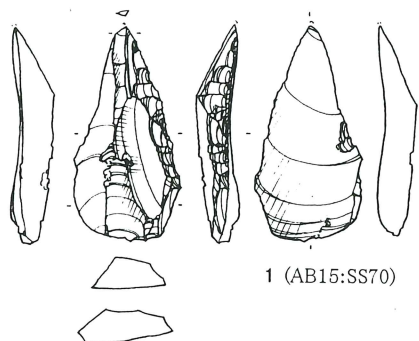
ドリル(25～26)

25は打面部を取り除くように、裏面から正面に調整剥離を施し、錐部を作り出している。

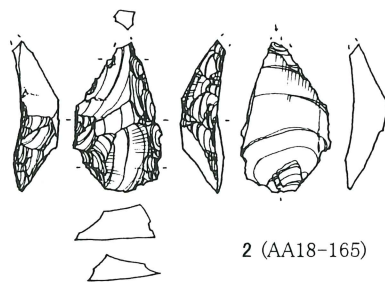
26は正面に原石面残した剥片の打面部を除去し、素材剥片を横に用いて、端部に僅かに錐部を作り出している。

彫器(27) 正面下半分に原石面を残し、右側縁に調整加工が施されている。彫刀面は左側縁に基部の中段まで施す。彫器と分類したのはこの1点のみであるが、

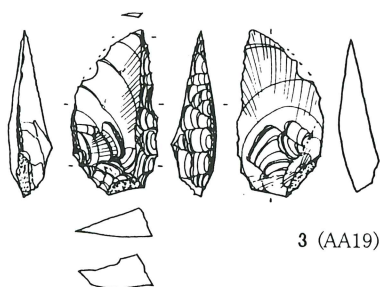
第12図 石器実測図(1)



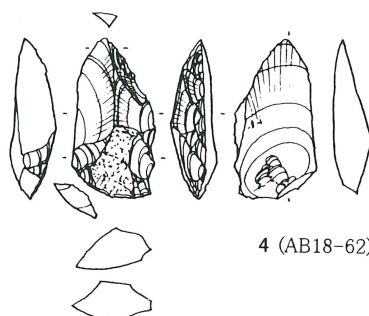
1 (AB15:SS70)



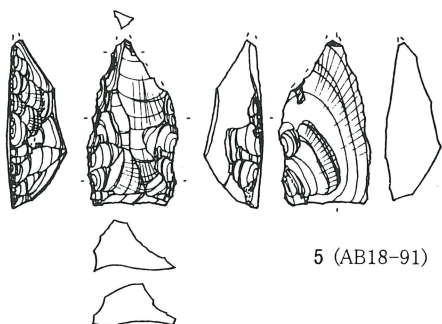
2 (AA18-165)



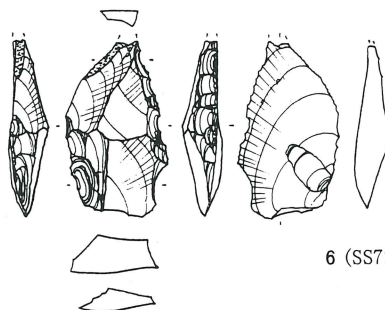
3 (AA19)



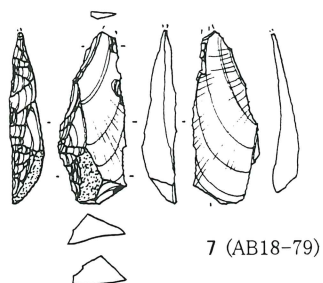
4 (AB18-62)



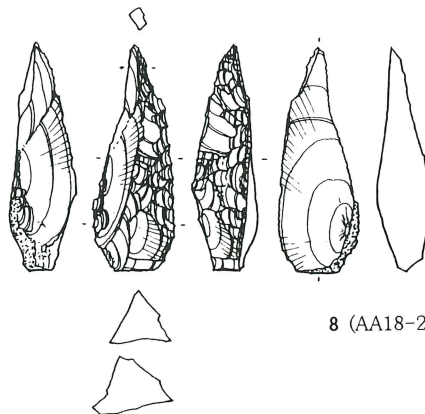
5 (AB18-91)



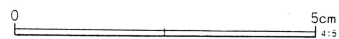
6 (SS72)



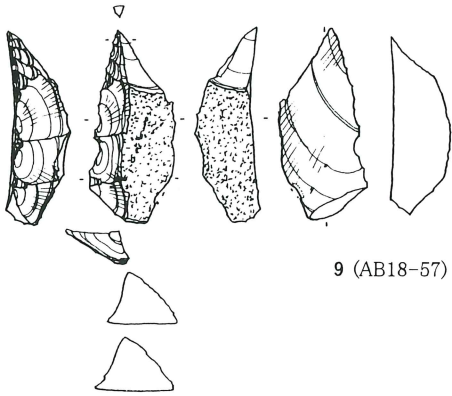
7 (AB18-79)



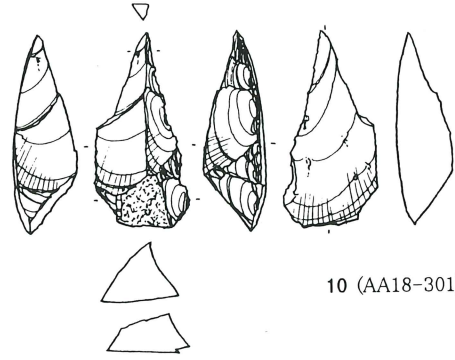
8 (AA18-241)



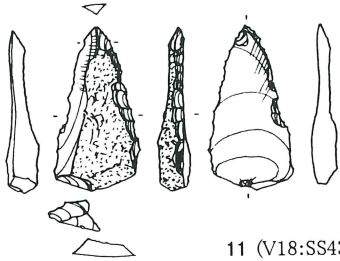
第13图 石器实测图(2)



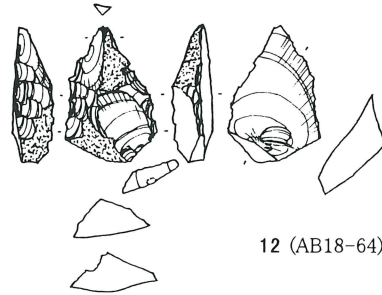
9 (AB18-57)



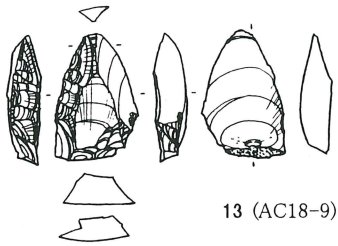
10 (AA18-301)



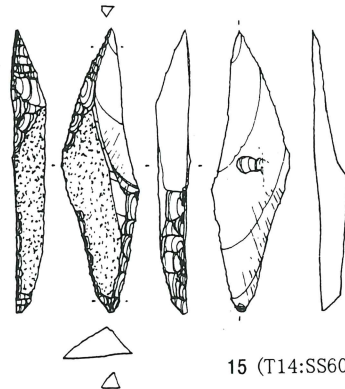
11 (V18:SS43)



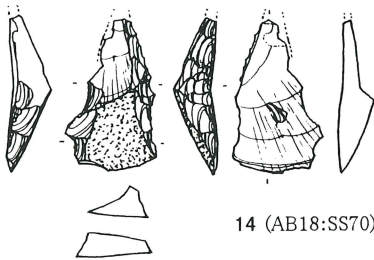
12 (AB18-64)



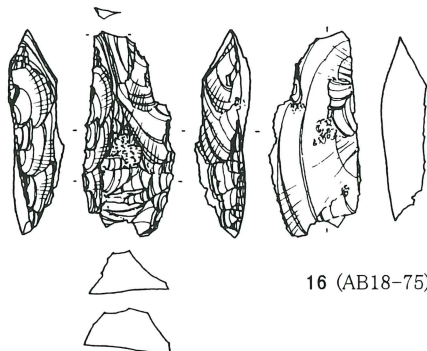
13 (AC18-9)



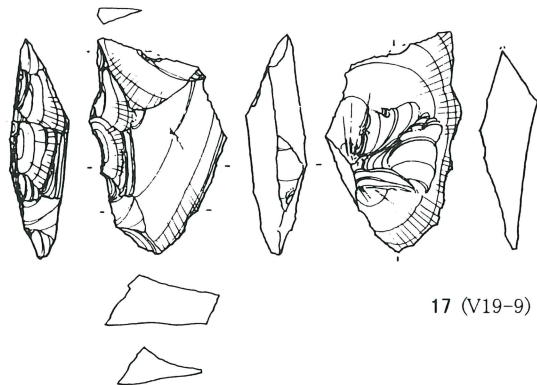
15 (T14:SS60)



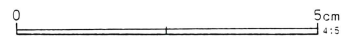
14 (AB18:SS70)



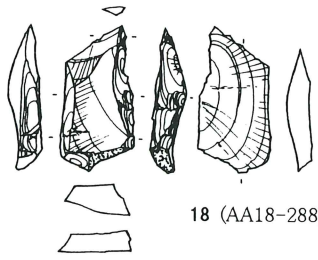
16 (AB18-75)



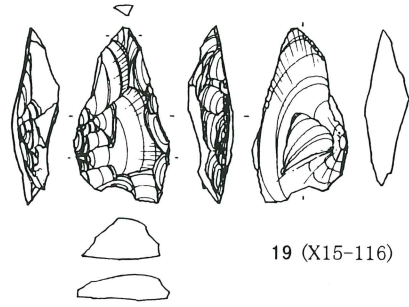
17 (V19-9)



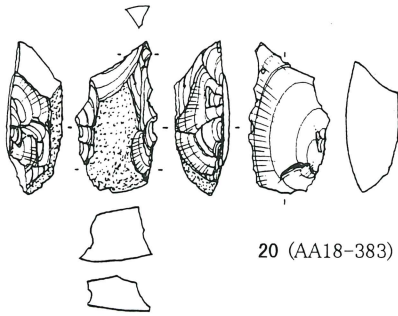
第14图 石器实测图(3)



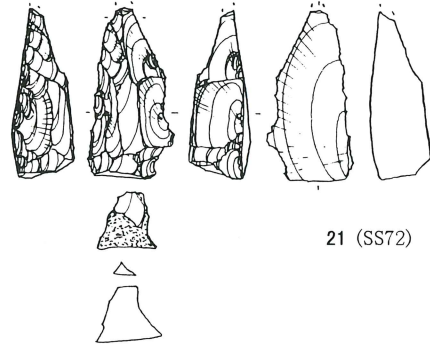
18 (AA18-288)



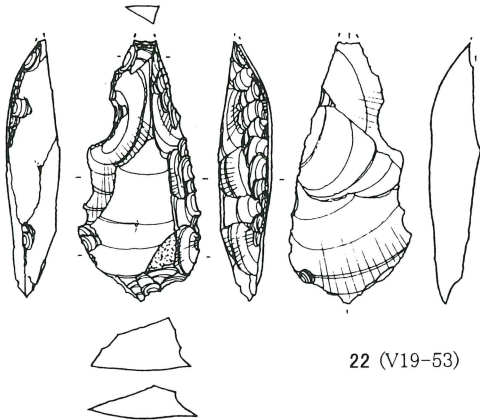
19 (X15-116)



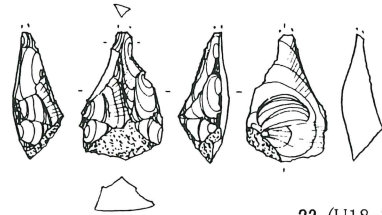
20 (AA18-383)



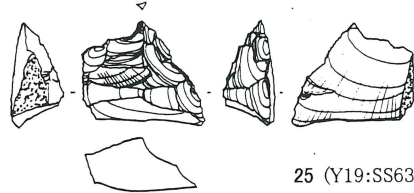
21 (SS72)



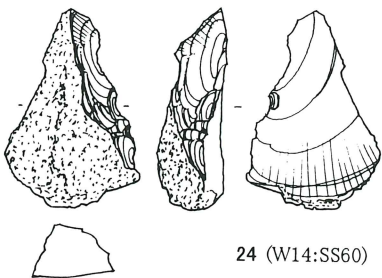
22 (V19-53)



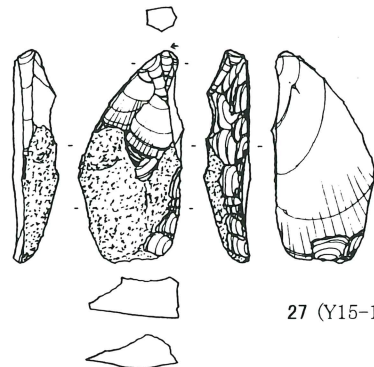
23 (U18-36)



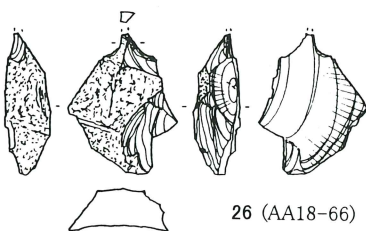
25 (Y19:SS63)



24 (W14:SS60)



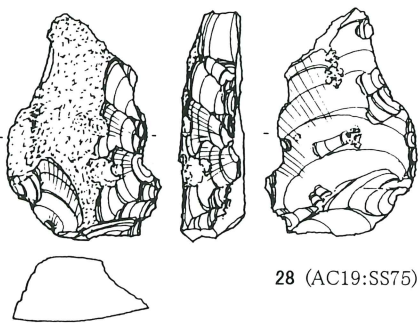
27 (Y15-1)



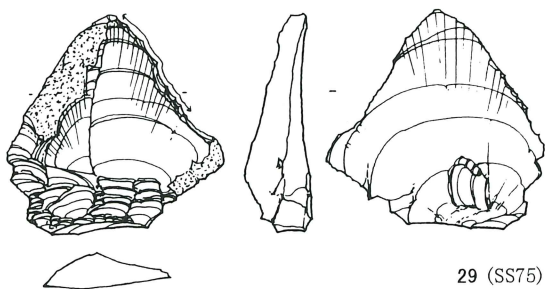
26 (AA18-66)



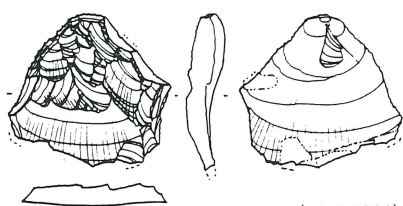
第15图 石器实测图(4)



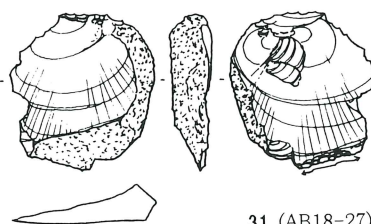
28 (AC19:SS75)



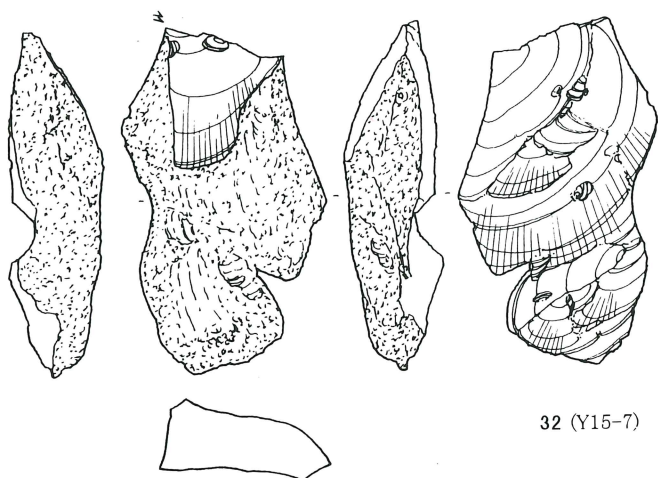
29 (SS75)



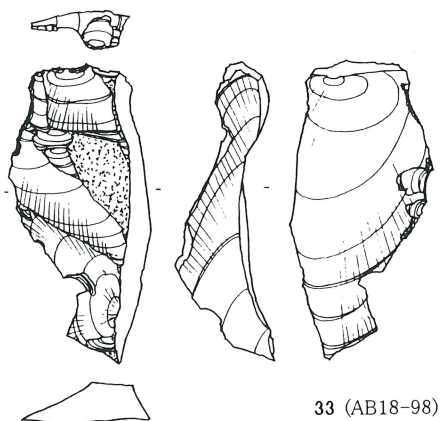
30 (W13:SS60)



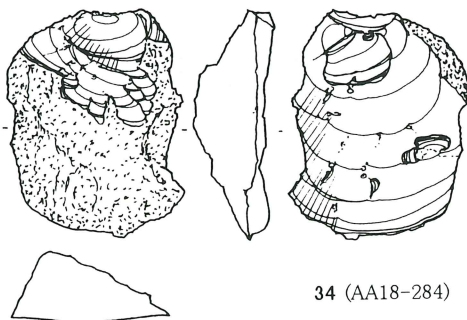
31 (AB18-27)



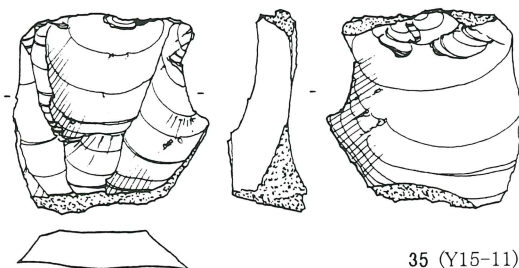
32 (Y15-7)



33 (AB18-98)



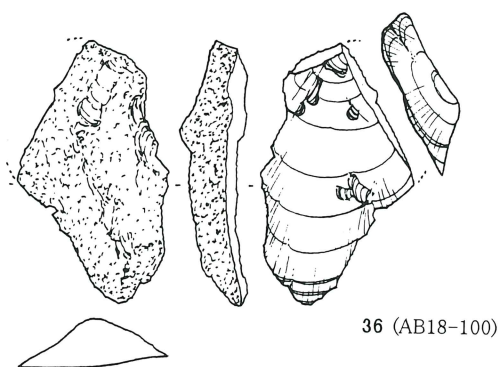
34 (AA18-284)



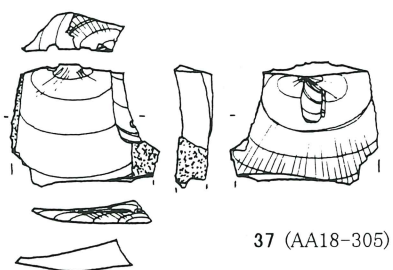
35 (Y15-11)



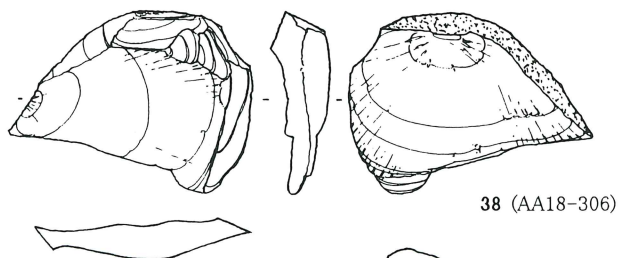
第16图 石器实测图(5)



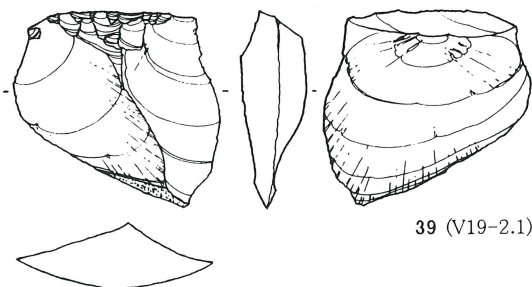
36 (AB18-100)



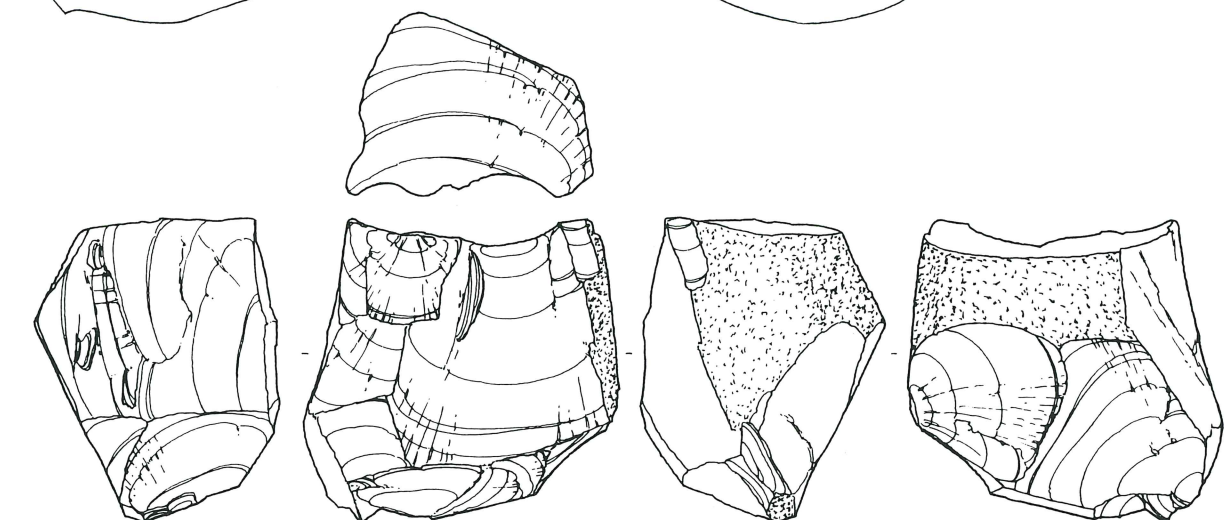
37 (AA18-305)



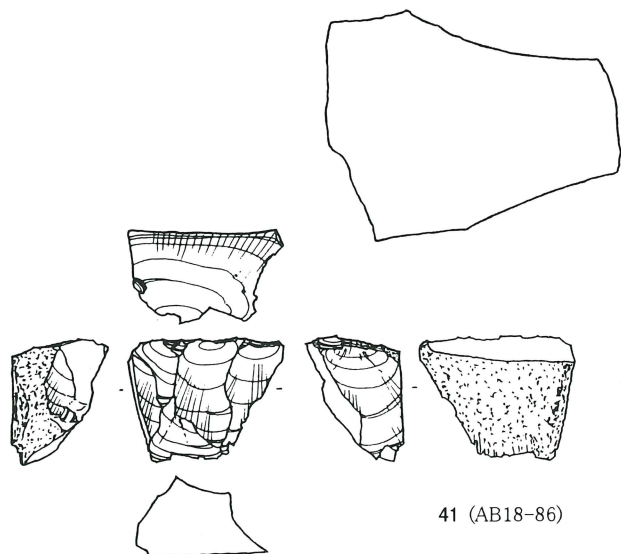
38 (AA18-306)



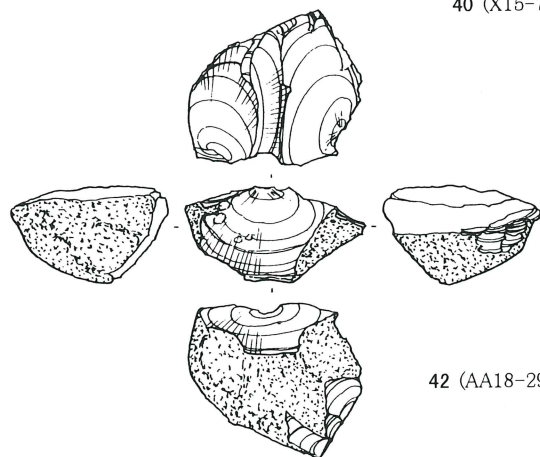
39 (V19-2.1)



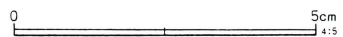
40 (X15-75)



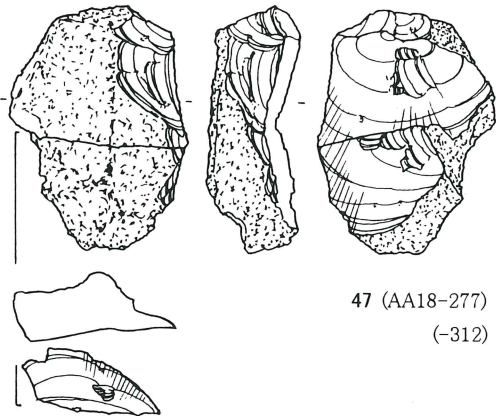
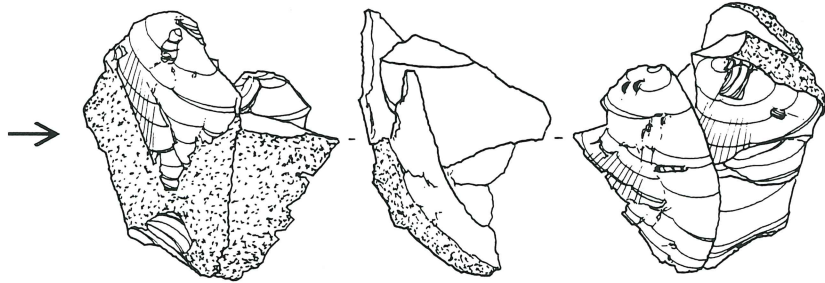
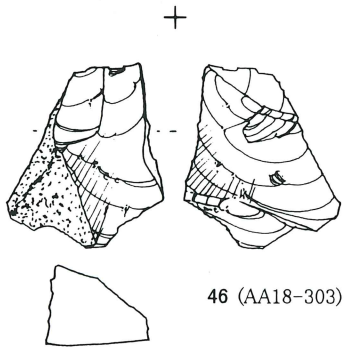
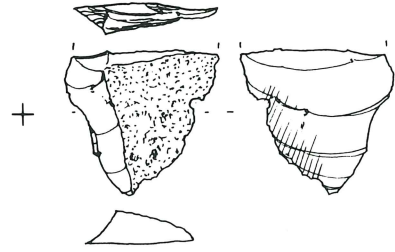
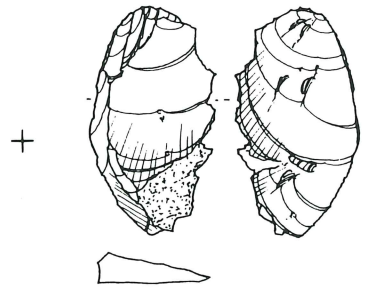
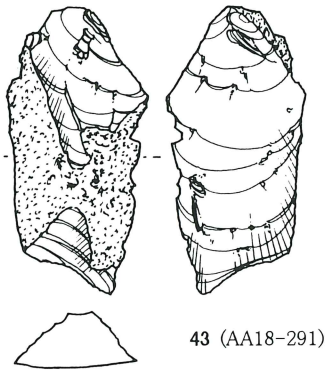
41 (AB18-86)



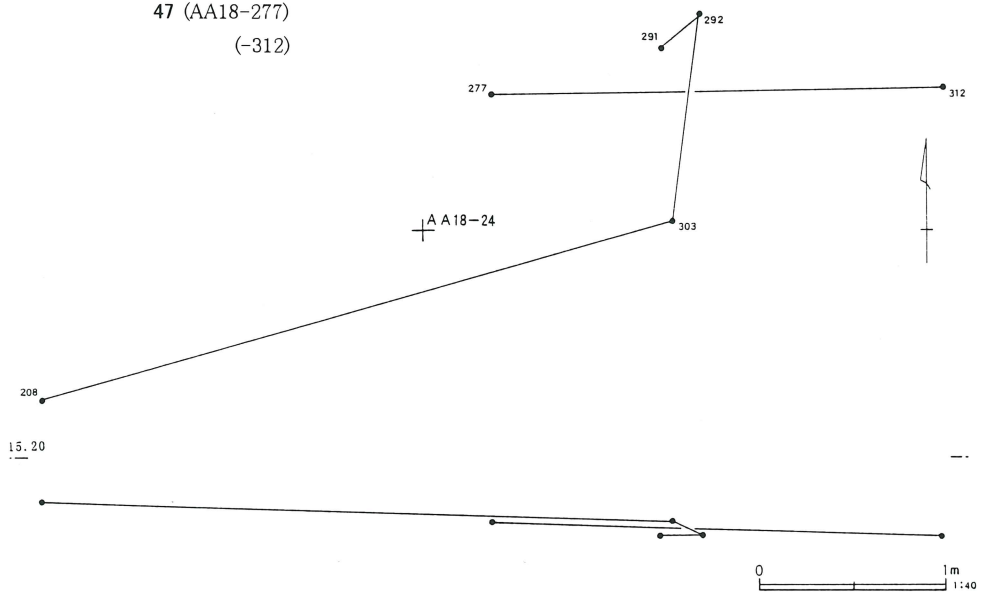
42 (AA18-297)



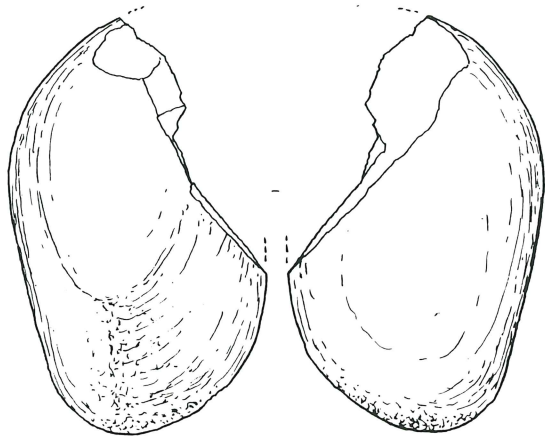
第17图 石器実測図(6)



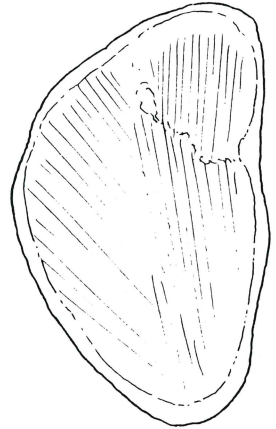
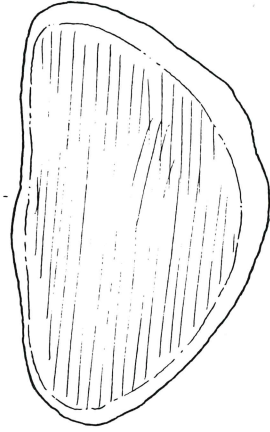
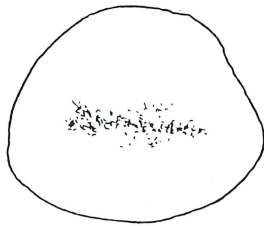
0 5cm 4:5



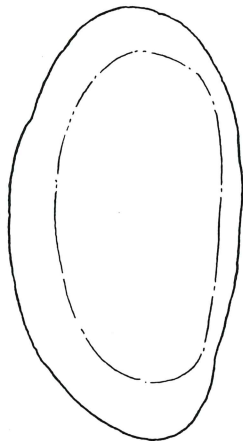
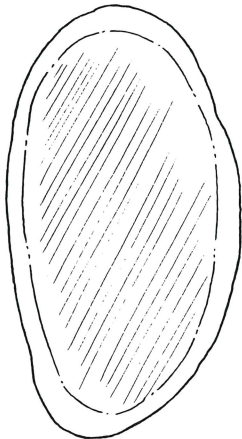
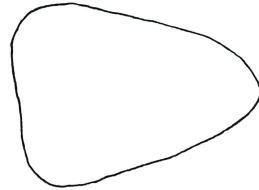
第18図 石器実測図(7)



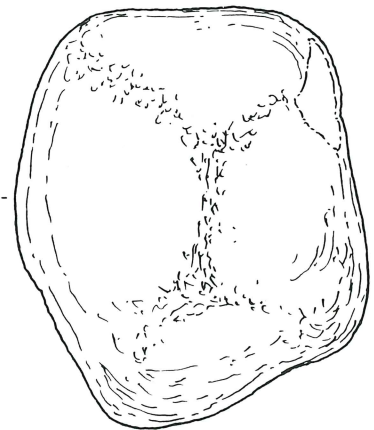
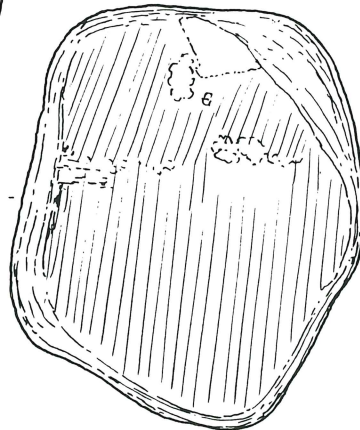
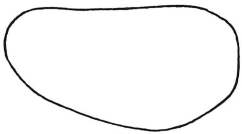
48 (Y15-15)



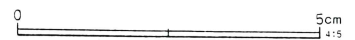
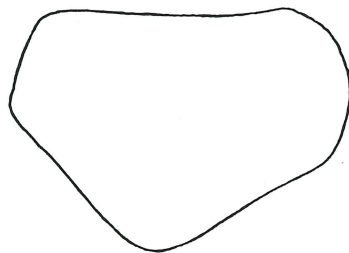
49 (AA18-118)



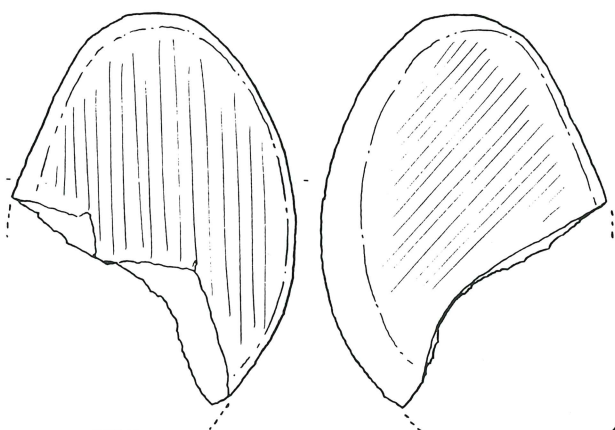
50 (AB18-50)



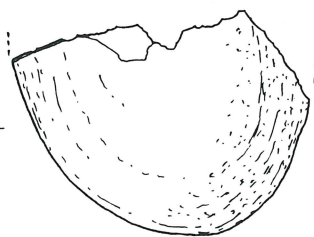
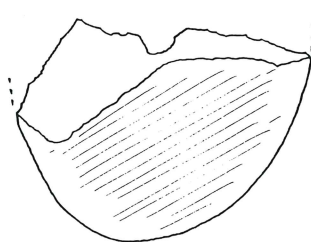
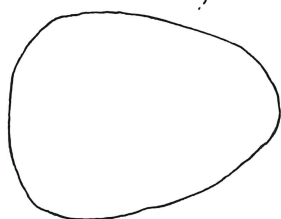
51 (AA18-222.1)



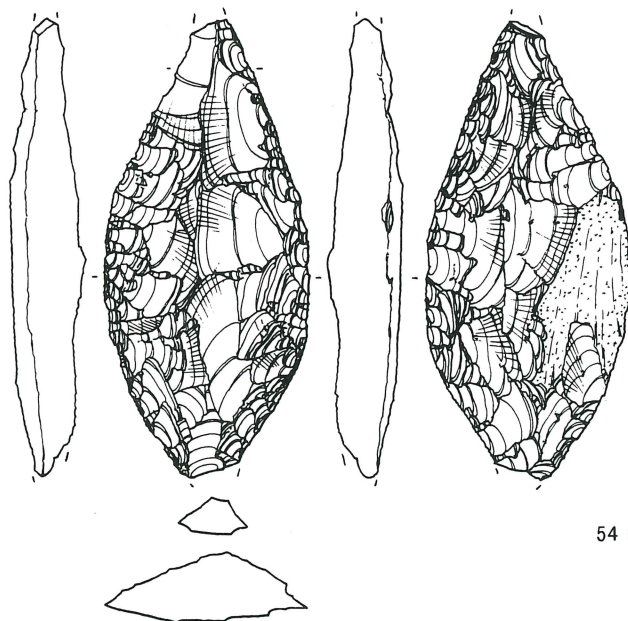
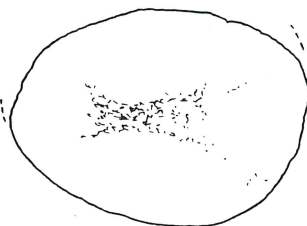
第19図 石器実測図(8)



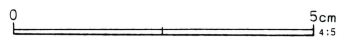
52 (AB18-125)



53 (AB18-126)



54 (Y14)



32は左側上縁から小さな槌状剥離が施されており、彫
刀面打面の作出を意図したものかもしれない。

石核 (40~42) 石核は剥片類に対し点数が少ない。
また、石核と分類したものは最終的な残核と思えるほ
ど、小さく形状が不整形であるものが目立つ。比較的
形状の整ったものを図示した。

40は黒色頁岩製の大型の石核である。打面は単剥離
面で作業面を正面としている。剥離された剥片は幅広
の縦長剥片になると思われる。

41は裏面に原石面を残し、作業面は正面に限定して
いる。打面は単剥離面で作業面の状況から小形の縦長
剥片を連続して作出していたと思われる。

42は円礫を2つに分割し、分割面を打面に横広剥片
を剥がしている。ナイフ形石器等の素材となった剥片
類は、この様な石核から取られたものが主に用いら
れたと考えられる。

剥片 (32~39、43~47) 剥片は102点、碎片は136点
が検出され、石器組成の中で占める割合は76%である。
主体を占める黒曜石は、剥片と分類したのもも小形の
ものが多く、碎片の区分は難しかった。図示したもの
は、比較的大形で形状の整ったものに限ったため、長
軸が1:1から縦長状のものが多くなったが、小形の

5. 器種別分布

D区から検出された石器群は、石器集中を中心に礫
群及び周辺のグリッドから出土している。また、石器
集中及び礫群は、約40mの距離で3箇所に分けること
ができる。石器集中7と礫群11・12をグループa、石器
集中8と礫群13をグループb、石器集中9と礫群
14~17をグループcとして検討する。

ナイフ形石器 ナイフ形石器は25点で、D区の主体
的な器種である。25点の内、プライマリーな状態で19
点、残りの6点は古墳の周溝等から検出されている。
形状の分かるものは実測図を掲載しているため、その
分類にしたがって、分布状況を観察する。

a類は11点と点数的にまとまっているが、すべてグ
ループcからの出土である。

ものは幅広の剥片が目につく。

接合資料 (43~47) 接合資料は2例のみであった。
いずれも石器集中9と近接する礫群内で完結してい
る。43~46は正面に原石面を残す剥片の接合で、縦長
剥片を連続的に剥離している。原石面の状況から垂角
礫に近い原石が用いられたと思われる。

47は正面に原石面を大きく残す厚手の剥片が、2つ
に欠損した接合例である。

敲石 (48) 上半部の一部を欠損するが、拳大の楕円
礫が用いられており、長軸の一端に僅かな敲打痕がみ
られる。D区の敲石はこの1点のみで、出土状況が、
石器集中から少し離れて単独で出土しているなど興味
深い。

磨石 (49~53) 拳大の楕円礫が用いられ、正面及び
両面に僅かに磨痕が観察できる。検出状況は石器集中
9とそれと隣接する礫群14・15にまとまっている。

尖頭器 (54) 先端と基端を欠損するが、全体の形態
は認識できる。正面左側に槌状剥離が施され、裏面下
半分右側に原石面を残している。調整加工は裏面が平
坦で、正面の剥離は中央部まで達し稜線を作っている。
そのため横断面は凸レンズ状になっている。

b類は5点とa類と比べ点数は少ないが、その分布
範囲は広く、グループa・bから少数であるが検出さ
れている。

角錐状石器 全体で4点検出された。その内、プラ
イマリーな状況で出土したのは2点である。いずれも
グループaに属している。

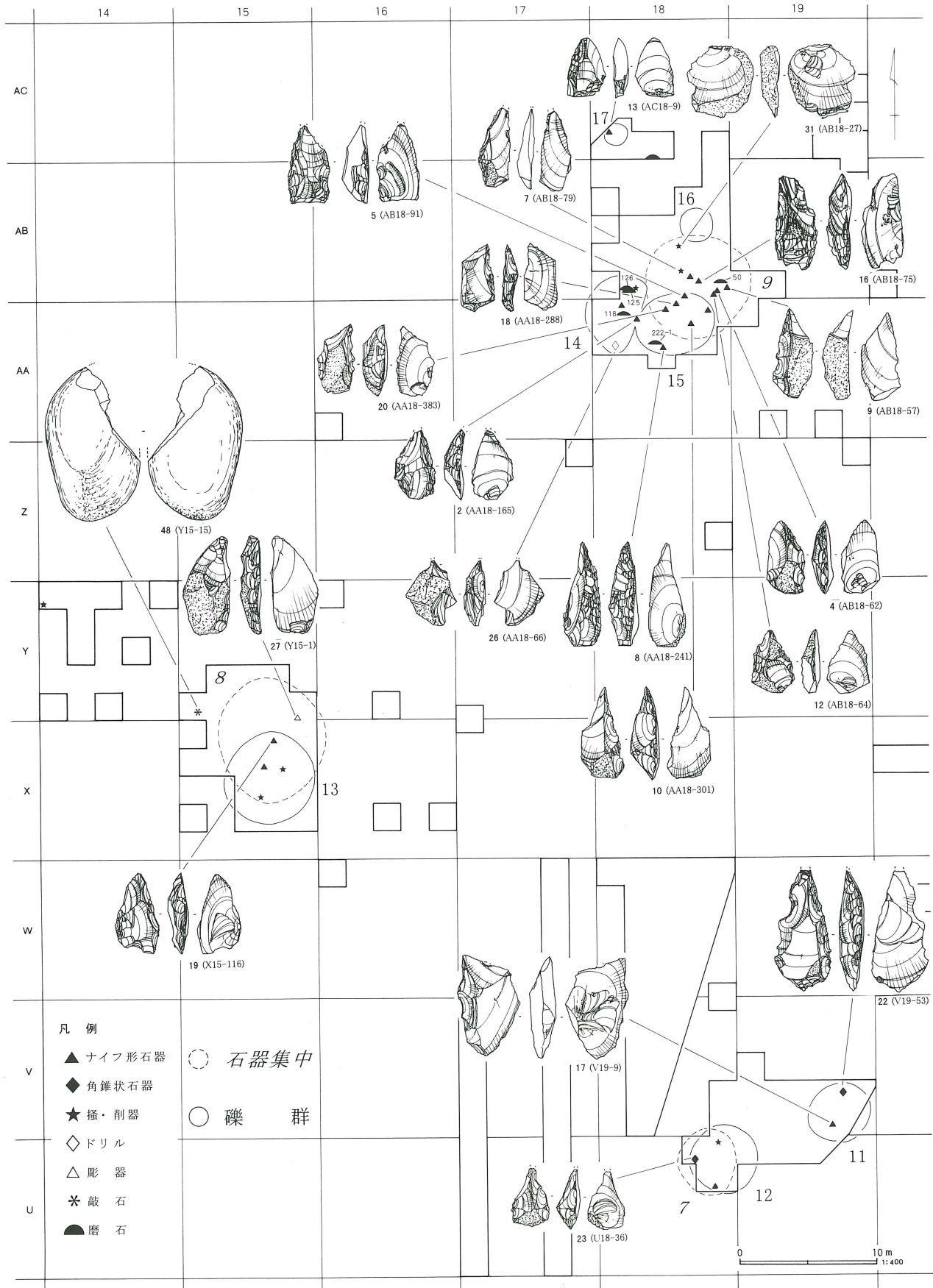
彫器 明確に彫器といえるのは1点のみであるが、
剥片Y15-7をブランクとして捉えれば2点と考えら
れる。いずれも、グループbからの検出である。

ドリル 2点出土したが、プライマリーな状況で検
出されたのはグループcの1点のみである。

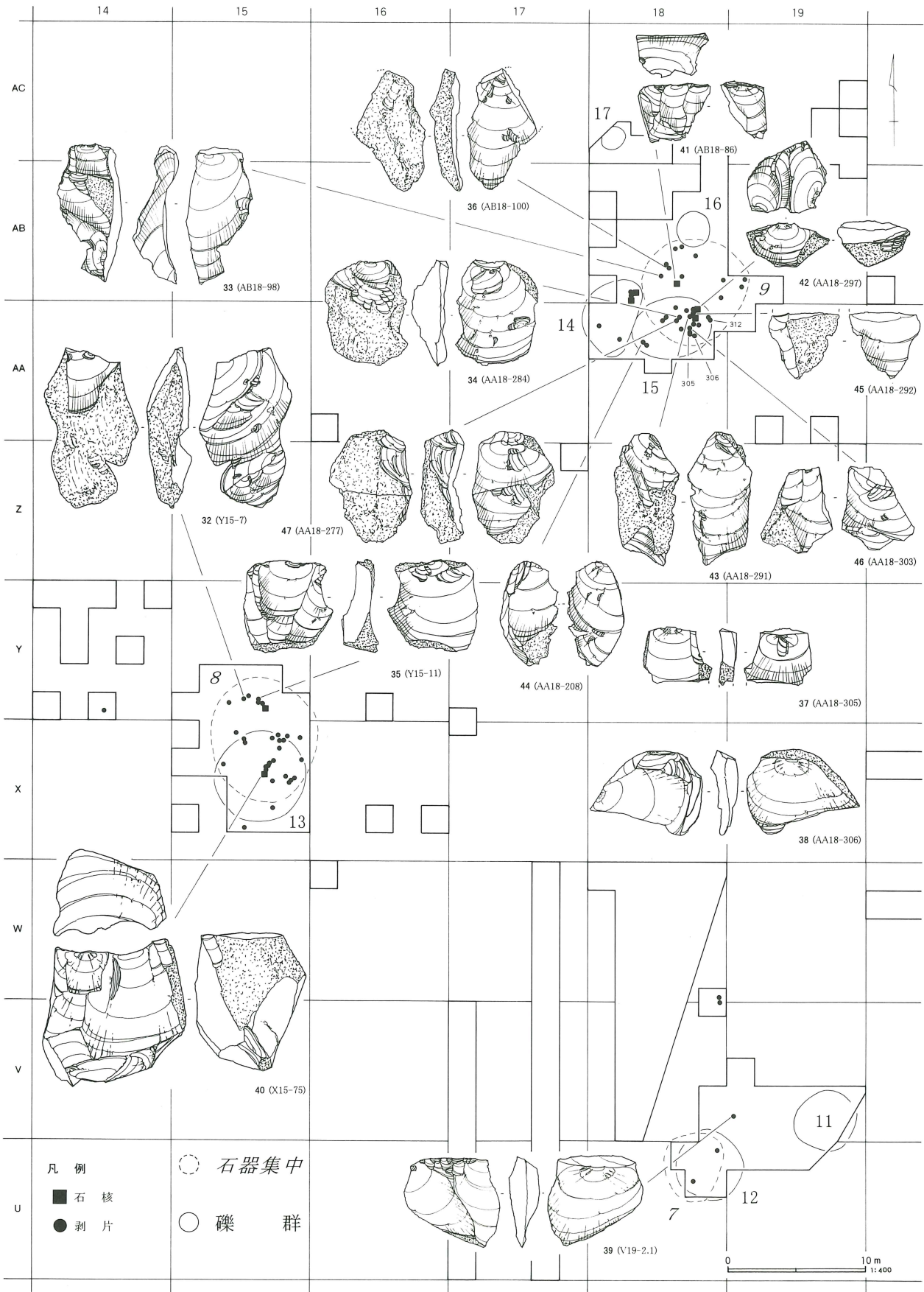
敲石 グループbの1点のみである。

磨石 6点ともグループcにまとまっている。

第20図 器種別分布図(1)



第21图 器種別分布图(2)



各器種の分布状況を検討したが、角錐状石器、彫器、敲石、磨石等が1箇所のグループのみから検出されている。それに対し、ナイフ形石器はa類がグループcに限定され、b類はグループcを主体にしながらも、

グループa・bに分布している。今後、C区の出土状況も合わせて、谷を囲む場の利用と石器分布のあり方を検討する必要がある。

6. 礫群

D区からは礫群7基が検出された。礫群は石器集中と関連性をもって、約40mの距離で3つのグループがみられる。グループaは石器集中7と分布が一部重複及び隣接して礫群11と12の2基がまとまる。グループbは石器集中8に一部分布が重複して礫群13がみられる。グループcは石器集中9と分布が一部重複及び隣接して礫群14~16と少し離れる礫群17が分布している。

3.2m、東西約2.5mの楕円形に分布している。

礫の総数は54点で石材は砂岩を主体にチャート、安山岩が用いられている。礫群からはナイフ形石器1点と角錐状石器1点が検出されており、石器集中7との関連性が窺える。

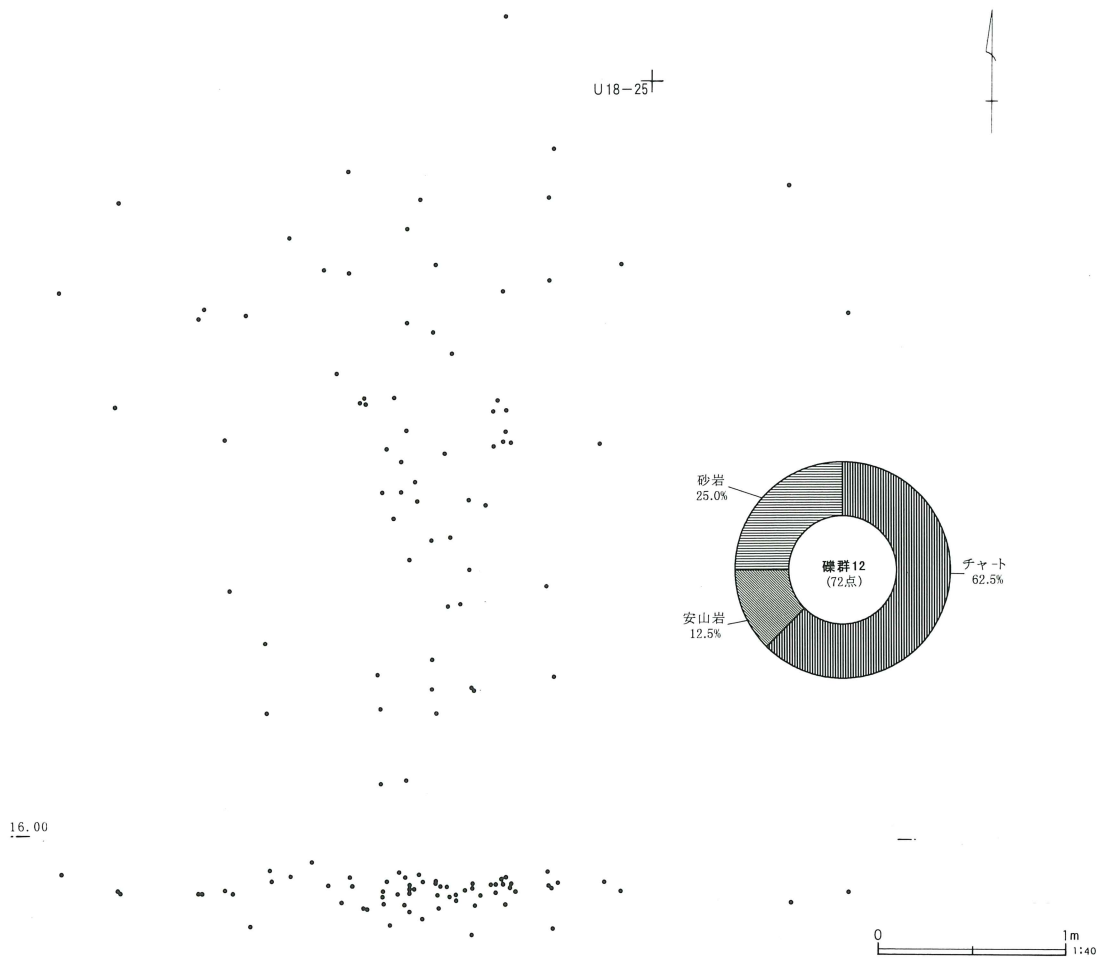
礫群11 (第22図) V19-5グリッドを中心に、南北約

礫群12 (第23図) U18-25グリッドに位置し、南北約4m、東西約3mの範囲に散漫に分布しているが、東西方向に帯状に比較的まとまっている。分布は石器集中7と一部重複している。

第22図 礫群11



第23図 礫群12



礫の総数は72点でチャートを主体に砂岩、安山岩が用いられている。

礫群13 (第24図) X15-14グリッドを中心に南北約4.5m、東西約5mの広い範囲に散漫に分布している。石器集中8と一部分布範囲が重複している。

礫の総数は110点で、チャートを主体に砂岩、安山岩が用いられている。

礫群14 (第25図) AA18-22グリッドを中心に南北約4m、東西約3.5mの範囲に幾つかのまとまりをもって分布する。石器集中7とは東側に隣接している。

分布の状況をもう少し観察すると、北東部に磨石とナイフ形石器、石核等の小さなまとまりがあり、D区の磨石の多くがここから検出されている。

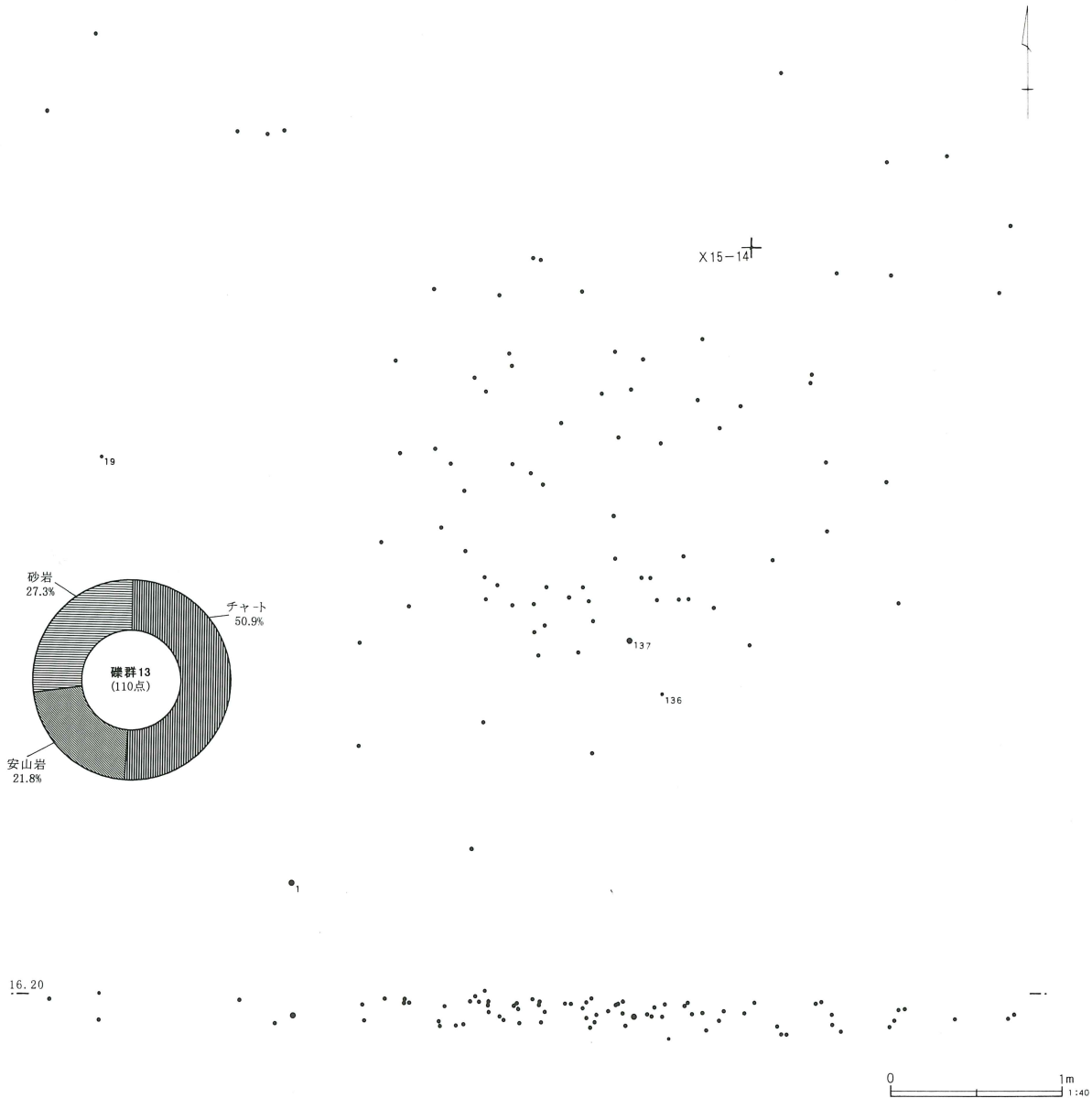
礫の総数は280点で、D区では最大規模の礫群である。石材はチャートを主体に砂岩、安山岩等複数が用

石材組成表

	ホルンフェルス	チャート	メノウ	安山岩	砂岩	石英	頁岩	合計
礫群11		14		14	26			54
礫群12		45		9	18			72
礫群13		56		24	30			110
礫群14	4	162	1	26	82	4	1	280
礫群15		77		13	25	4	2	121
礫群16	1	26		3	3			33
礫群17		16		5	24	1		46
合計	5	396	1	94	208	9	3	716

	ホルンフェルス	チャート	メノウ	安山岩	砂岩	石英	頁岩	合計
U19				1	1			2
V18				4	2			6
V19		1			2			3
X15		3		6	4			13
Y14		4			4			8
Y15		5						5
Y17				6	2			8
AA18		1		5	6			12
AA19		2						2
AB18		20		5	12			37
AC18		1		1	5			7
AC19		1						1
合計	0	38	0	28	38	0	0	104

第24図 礫群13



いられている。

礫群15 (第26図) AA18-18グリッドを中心に南北約3.5m、東西約5mの範囲に散漫ではあるが、幾つかの小さなまとまりをもって分布している。石器集中9とは分布が一部重複し、礫群14とは東西の位置に隣接している。東側にあるまとまりからナイフ形石器、磨石等が検出されている。礫の総数は121点で、チャートを主体に砂岩、安山岩が用いられている。

礫群16 (第26図) AB18-14グリッドを中心に南北約1.5m、東西約1.5mの狭い範囲に分布する。石器集中

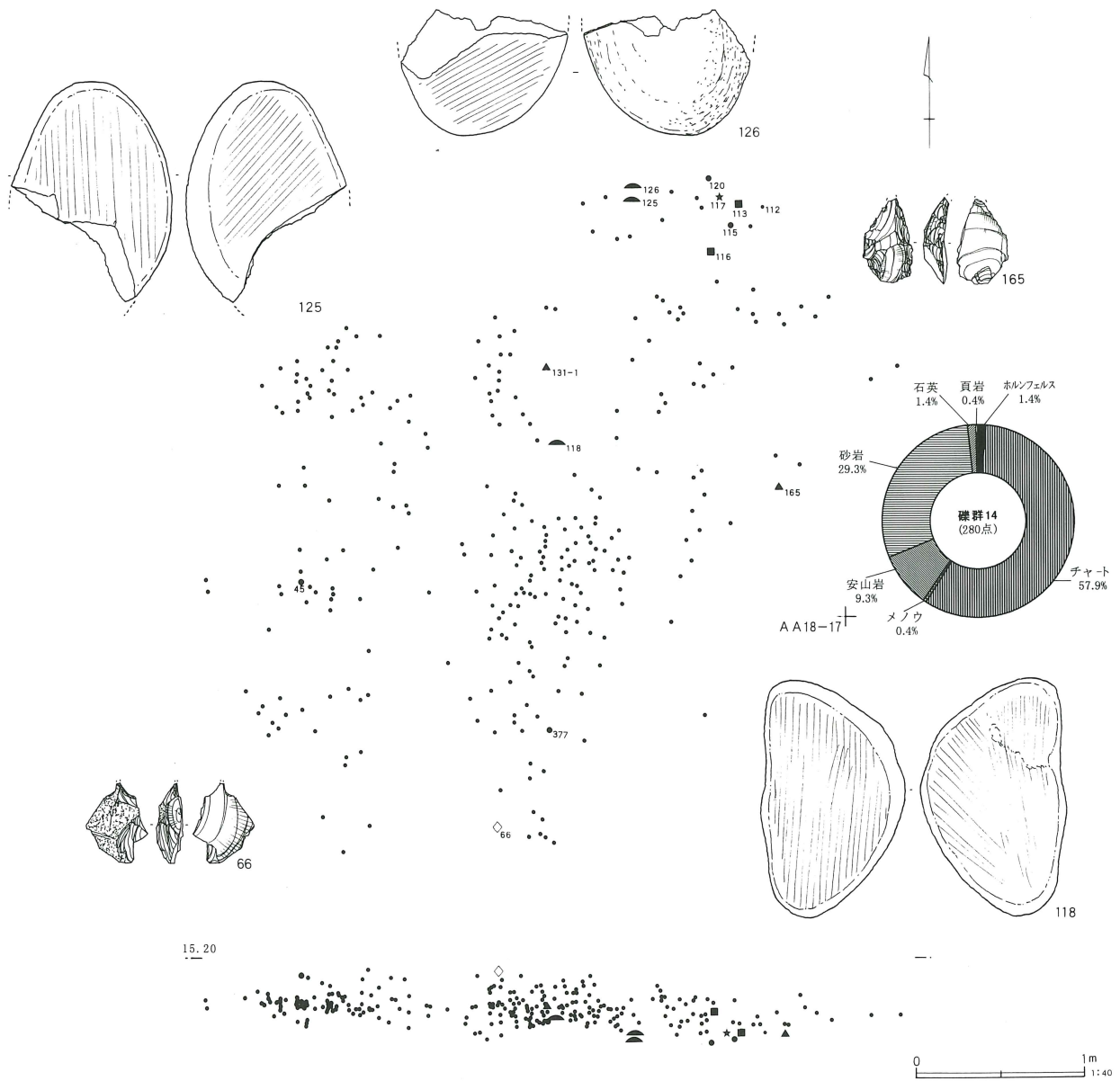
9の北側に隣接している。

礫の総数は33点と少なく、石材はチャートを主体に安山岩、砂岩が用いられている。

礫群17 (第26図) AC18-1グリッドを中心に径約0.8mの円形に密集している。石器集中9とは、北側に若干離れており、ナイフ形石器が中心部から、碎片、磨石等が周辺から出土している。

礫の総数は46点と狭い範囲の割りに多い。石材は砂岩を主体にチャート、安山岩が用いられている。

第25図 礫群14



礫の接合 (第27図) 礫の接合状況は礫群内で完結するものがほとんどで、グループを越えてまで接合するものはない。比較的接合率の高い礫群17は、狭い範囲

での接合がみられた。一方、礫群14と礫群15では礫群間を含み広い範囲での接合状況がみられる。